日本建築学会北海道支部
2013 年度　通常総会

日時　　2013 年 5 月 10 日（金）
会場　　北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2013 年度総会議案

Ⅰ　2012 年度事業報告

本学会が一般社団法人へと移行したことに伴い、法制上、支部の位置づけが大きく変わることとなった。変更点を以下に要約すると、会計法上、学会の会計基準が「部門（本部と支部)」から「事業」に変更され、法人全体の決算書が事業区分ごとに表示されることとなった。これは今まで本部と支部ごとに独立して事業報告・審議承認していたものが、本部と支部の区別なく事業ごとに合算して本部総会によってのみ承認されることを意味する。よって、支部収支の予算・決算は支部総会の審議事項ではなく、報告事項となった。支部総会で審議することは、支部規則改定等に限られ、法制上は、支部の存在がやや希薄化した感じとなる。しかし、学会本部のスタンスとして、支部事業の独立性を尊重し業務内容には大きな変化はない。この変更により、支部予算の確定の必要性からこれまで本部総会前に実施しなければならなかった支部総会が、任意の時期に開催が可能となったことは、特筆すべきことであろう。一方で、これまで固定であった支部選出の代議員定数が、支部所属の正会員数に応じて割り振られることになったため、これまで以上に支部会員数の増強が求められることとなった。残念ながら、当支部においても、近年の個人会員、法人会員の減少は著しく、4 月現在で、正会員 878 名、準会員 6 名、法人 44(60 口)、賛助会員 6(7 口)という状況である。

主立った活動を記載する。第 85 回支部研究発表会が旭川市内の北海道立総合研究機構北方建築総合研究所において開催された。発表題数は 141 題で、活発な討論がなされた。これに合わせて和田章会長の支部訪問を受け、支部役員との懇談会及び会長による記念講演会が催された。

表彰関係では、建築文化の継承に尽力された会員外の工匠にも光を当て、学会と支部の存在をアピールする意図を北海道支部技術賞に込め，表彰者 1 件を選定した。建築を陰で支える功労者を発掘する新たな表彰制度として地域に愛されていくことを期待する。また、北海道建築賞は今回で第 37 回を数え奨励賞 2 件の表彰。こちらは北海道の建築文化を育て、市民の建築への関心を高める一定の役割を果たしてきている。加えて、北海道建築作品発表会は第 32 回を迎えた。今年度より、本部表彰として若手建築家を対象とした日本建築学会作品選奨が設立された。当発表会をスタートに多くの若手の挑戦が期待される。

2013 年度日本建築学会北海道大会が 8 月 30 日から 9 月 1 日にかけて、北海道大学での開催が予定されている。それに向けての組織編成および準備を進めている。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日　　2012 年 5 月 11 日
会場　　北海道建設会館
出席正会員　　49 名（委任状　15 通）

当支部地域在住正会員 857 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立

2011 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2012 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 常議員会

6 回開催(通信常議員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

２．学術系委員会の活動

２．１　学術委員会（主査：佐藤　孝君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では，本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に伝達するとともに，各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また，支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認，特色ある支部活動企画の申請，特定課題研究の推薦，建築文化週間事業企画および北海道支部技術賞の募集と選考を行った。

- 2013 年度特色ある支部活動企画：北海道支部からの「大雪による建物倒壊危険度判定方法の策定」が採択された。
- 2013 年度特定課題研究は３件の応募があり、審議の結果、
  「寒冷地におけるフライアッシュ有効利用を目的とする調査研究」（材料施工専門委員会より申請，支部助成，2 年間）および「北海道における戦後建築の変遷とその特徴に関する基礎的研究（歴史意匠専門委員会）本部助成」の 2 件を常議委員会に推薦した。
- 2013 年度建築文化週間企画：「地震防災体験学習・親子で始める地震防災対策」（都市防災専門委員会）と「国重要文化財豊平館保存修復工事の見学　建築散歩～豊平館を見て楽しむ」（歴史意匠専門委員会）の 2 件の企画を承認した。
- 支部技術賞：11 月 15 日～1 月 15 日の募集期間に 3 件の応募があり、北海道支部技術賞選考委員会にて「道内歴史的建造物の保存修復技術に係る建築技能の継承」（亀田工業株式会社 代表取締役 亀田宏君ほか 4 名）の 1 件を選出し、常議員会の議を経て決定された。

２．２　専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会　（主査：伊東　敏幸君，委員数：23 名，委員会開催数：6 回）

本委員会は 2 ヶ月に 1 回の割合で開催した。委員会では、学会本部の材料施工委員会や関連委員会の報告、諮問事項の検討などを行い、材料・施工に関する情報について意見交換した。また、最近の研究動向に関する話題提供として、「岩見沢・三笠地区豪雪における屋根雪と屋根損傷」、「気温の平年値の変化が寒中コンクリート工事の適用期間・積算温度におよぼす影響」、「収縮低減材料を使用したコンクリートの技術の現状」について報告して頂き、委員による意見交換を行った。なお、11 月 2 日（金）に琴似 4・2 地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事の現場見学会を参加者 42 名で実施（構造専門委員会と合同）した。

◆ 構造専門委員会　（主査：田沼　吉伸君，委員数：24 名，委員会開催数：2 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。

1) 委員会開催
   委員会を都市防災専門委員会と合同で 2 回行った（6 月 29 日，12 月 17 日）。また、必要に応じて通信会議を行った。
2) 見学会
   (1)琴似 4・2 地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事(住宅棟)の現場見学：材料施工専門委員会と合同実施
   実施日時：2012 年 11 月 2 日(金)　　参加者：42 名
   (2)北榮興業(株)恵庭工場(異径、絞り管の溶接施工状況等)：溶接学会北海道支部,日本鉄鋼連盟と共催
   実施日時：2013 年 1 月 18 日(金)　　参加者：22 名
3) 北海道大学　緑川光正先生の学会賞受賞講演会：研究室と共催
   実施日時：2012 年 9 月 15 日(土)　　参加者 49 名
4) 勉強会
   12 月 17 日の委員会終了後、昨年度の道内の積雪被害(その後の経緯も含む)に関する調査結果関する勉強会を行った。
   担当：草苅委員、堤委員、田沼委員、前田委員

◆ **環境工学専門委員会　（主査：斉藤　雅也君，委員数：29 名，委員会開催数：4 回）**

2012 年度は以下を実施した。

1）学位を取得した若手研究者（湯川崇委員（札幌市立大学））の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握した（2012 年 7 月）。
2）支部「専門委員会」規程にある委員定数（10 名前後）に対して大幅に上回っている現状（29 名）を再考し、オブザーバー制の導入によって委員を再構成し、2013 年に対応することとした。
3）2013 年度の全国大会（北海道大学）環境工学本委員会の研究協議会「異分野からの視点を活かす建築環境工学－人材育成と地域課題解決に向けた連携のすがた－」の企画案をまとめた（2013 年 8 月 31 日開催予定）。
4）見学会「どうぎんカーリングスタジアム」を実施した(2012 年 10 月 15 日、参加 20 名)。
5）見学会「北海道工業大学新体育館（HIT アリーナ)」を実施した（2012 年 12 月 6 日、参加 20 名)。
6）「第 7 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs'12」の開催を支援した。また、伊庭千恵美氏（京都大学）から特別講演会を開催した（2012 年 3 月 8 日、室蘭工業大学にて開催、全 32 題、参加 65 名)。
7）北方系住宅委員会と共催で、見学会「夕張市営住宅（これからの住まいと暮らしを考える)」を企画したが、暴風雪の荒天のため中止した（延期の予定はない)。
8）空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会「環境建築の実現に向けて」(2013 年 3 月 4 日、北海道大学開催、参加 50 名)、NPO 法人パッシブシステム研究会主催 第 2 回市民セミナー「冬暖かく、夏を涼しくエネルギー依存の少ない家作り」(2013 年 3 月 10 日、札幌エルプラザ開催、参加 45 名）を支援した。

◆ **建築計画専門委員会　（主査：森　　傑君，委員数：14 名，委員会開催数：3 回）**

本年度も昨年度から継続して、これまでの活動実績を踏まえつつ、今後もより精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、若手を中心としたメンバー構成のもと再活性化に取り組んだ。具体的には、各委員の研究活動の情報共有とともに、東日本大震災に関わる北海道への避難移住者の生活・居住実態に関する調査研究を昨年から引き続き取り組んだ。また、2013 年度の北海道大会における建築計画部門の研究集会として、当委員会から提案したパネルディスカッション「そこへ住まうことの意味ー住まいと住まい方、その選択の現代性ー」が採択された。

◆ **都市計画専門委員会　（主査：坂井　文君，委員数：14 名，委員会開催数：6 回）**

都市計画委員会は、8 月に公開シンポジウム「創成川公園からひろがるイーストのまち～これから何がおこるのか？～」を開催し、3 名のプレゼンターと約 60 名の参加者によって、これからの札幌創成川以東地区のまちづくりについての議論した。また 3 月には、北海道の地方都市をめぐる都市計画の現状と課題についての意見交換が昨年度に引き続き企画され、今年度は後志で行われている空き家対策について現場の報告につづき、空き家・空施設・空き地に関わる都市計画の課題について議論した。来年度の北海道における全国大会の開催に際しての企画計画や、研究課題について議論を継続的に行った。

◆ **歴史意匠専門委員会　（主査：羽深　久夫君，委員数：17 名，委員会開催数：4 回）**

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。2012年度道内工業高校巡回講演会は「北海道の建築家、その活動の歴史」(9/27)をテーマに旭川工業高校で行なった。恒例の建築文化週間事業は「歴史的建造物の見学　建築散歩～北彩都・旭川編」(10/13)をテーマに26名の参加者で行なった。北海道内の歴史的建造物について建築文化財としてのリストづくりや修理プロセスのマニュアルづくり等を WG で検討した。

◆ **北方系住宅専門委員会　（主査：鈴木　大隆君，委員数：17 名，委員会開催数：4 回）**

本委員会は以下の活動を実施した。

1) 住宅ストックの持続的活用による北海道の住文化の形成に資するために、支部特定課題研究「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」を実施した。

2) 委託研究「北海道の新たな住宅居住水準の検討」委員会に協力を行った

3) 2013 年大会時の住まいづくり建築支援・市民セミナーの開催案について検討を行った。

◆ **都市防災専門委員会　（主査：草苅　敏夫君，委員数：19 名，委員会開催数：2 回，通信委員会開催数：3 回）**

都市防災専門委員会では、10 月 20 日に厚岸町で開催された建築文化週間「地震防災体験学習 in 厚岸」への運営協力支援、防災ワンデー「釧路防災講演会 2012～検証　釧路の古津波～」に対する協力を行い、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、東日本大震災における釧路市住民や事業所の避難状況に関するアンケート調査を実施し、結果を支部研究発表会にて報告した。

冬期の停電時における防災対策について検討することを目的に、WG を組織し登別市等でアンケート調査を実施した。

２．３　特定課題研究委員会の実施

(2011 年度より)

◆**三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能居住研究委員会（主査：鈴木　大隆君　委員数：12 名、委員会開催数：3 回）**

三角屋根コンクリートブロック住宅（三角屋根 CB 造住宅）は北海道防寒住宅等促進法制定以降から北海道住宅供給公社により全道の主要都市へ供給され、その数は 1 万 2 千戸と言われている。寒冷地住宅の建築計画学の第一人者であった故足達富士夫北海道大学教授はそれを「北海道の民家」と評するなど三角屋根 CB 造住宅の評価は高い。住宅改修が考慮される現在、ストックとしても多く現存しかつ現代史的にも秀逸な三角屋根 CB 造住宅より、新たな住空間の可能性を見いだすために、昨年度は以下の活動を実施した。

１）三角屋根コンクリートブロック造住宅の開発経緯を明らかにするために、建設省や研究機関等の記念誌を収集及び開発技術者等にヒアリング調査から、日本および北海道の住宅政策等を含める三角屋根コンクリートブロック造住宅の開発経緯についてまとめた。

２）昨年度実施した現地調査（約 7000 戸）を再度実施し、三角屋根 CB 造住宅の状況を把握し現況について明らかにした。

３）札幌市および周辺都市の都市計画図、各団地の記念誌（自治会誌）等を収集し、団地の開発過程及び都市拡大の関係性について明らかにした。

４）一昨年度の成果を学会大会で発表（3 編）、調査内容が北海道新聞の記事にも掲載された。また、報告書（約 200 ページ）を作成した。

(2012 年度より)

◆**奥尻島生活再建研究委員会（主査：南　慎一君，委員数：9 名，委員会開催数：3 回）**

津波災害からの生活再建過程について、既往資料の分析及び住宅対策関係者に聞き取り調査を行い、災害公営住宅及び個人住宅対策の内容を把握した。生活行動・意識の変化については、住民の聞き取り調査を行い、災害前後の生活環境の変化とその評価について把握した。

◆**厳冬期被災を想定した避難所運営手法に関する研究委員会（主査：森　太郎君，委員数：6 名，委員会開催数：8 回）**

1.上士幌町にて避難所運営研修を 6/21 に実施:上士幌町山村開発センターを避難所として想定(厳冬期における地震被害)

2.仙台高専にて避難所運営研修と被災時の避難所生活に関するアンケートを 6/24 に実施：HUG に掲載されている体育館を避難所として想定，体験者の状況に配慮し具体的な災害は想定しなかった.

3.十勝圏広域防災研修にて避難所運営研修を 9/20 に実施
4.白老町にて避難所運営研修を 10/17 に実施：白老町立緑丘小学校を避難所として実施（厳冬期における地震被害）
5.北海道建築士会女性部研修にて避難所運営研修を 11/4 に実施
6.釧路町にて避難所運営研修を 2/10 に実施
7.帯広市厳冬期防災訓練にて避難所運営研修と避難所の温熱環境測定を 2/16-17 に実施
8.浜中町にて避難所運営研修を 3/1 に実施
9.登別市，猿払村にて冬期の停電時における防災対策に関するアンケートを実施
10.釧路市，白老町，浜中町等を対象に備蓄物資に関するアンケートを実施
11.大林都市財団の助成金を取得
12.活動報告は東日本大震災シンポジウム，建築学会北海道支部で実施する予定

２．４　本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2011 年度より)

◆寒中コンクリート工事合理化研究委員会（主査：谷口　円君，委員数：13 名，委員会開催数：3 回）

本委員会は，地域，養生条件等の異なる実施工現場において，外気，上屋内，構造体，管理供試体温度の実測データを収集・解析を行い，寒中コンクリート工事における構造体温度の把握や養生条件，外気温との関係の検討，強度予測精度の検証等，合理的な寒中コンクリート工事施工計画を立案するための実用的な資料提供を目的に活動を行った。

2012 年度は，以下の活動を行った。

1）向寒期の実施工現場における温度実測・解析およびコンクリート強度試験
（道内２現場で 7 回のコンクリート打設時に温度実測を実施）
2）2 年間の実測データの解析ととりまとめ

委員会の成果は，2013 年支部研究発表会および大会に投稿・発表する予定である。

２．５　特色ある支部活動の実施

該当なし

３．委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2011.5.31	新たな北海道型住宅の居住水準に関する研究	北海道の住宅居住水準検討委員会 (主査　森　　傑)	地方独立行政法人北海道立総合研究機構

３．１　受託の概要

新たな北海道型住宅の居住水準に関する調査研究業務（受託金額：500,000円）

21世紀の北海道の社会情勢を踏まえ、これからの北海道にふさわしい新たな住様式、住宅像を描き出し提案することを目的とする。

３．２　委員会の報告

北海道の住宅居住水準検討委員会(主査：森　傑，　委員数 14 名，委員会開催数 10 回)

本委員会は、「新たな北海道型住宅の居住水準に関する研究」のための検討委員会として、平成 23ー24 年度の 2 年間、21 世紀の北海道の社会情勢を踏まえ、これからの北海道にふさわしい新たな住様式・住宅像を描き出し提案することを目的とした。戦後、北海道の住宅は寒さや雪の障害の克服を目指して、大きな変貌を遂げてきた。しかし、21 世紀に入りこれまで経験されてこなかった人口減少・少子高齢社会の到来や多様な価値観に基づく住要求など、居住水準を取り巻く認識や価値観が大きく変わってきている。平成 24 年度は、提言書の構成と内容の検討及び作成を行い、総括シンポジウムとして「30 年後の北海道の生活と住まい」(2013 年 1 月 23 日)を開催した。

４．支部研究発表会の実施（主査：高井　伸雄君，実行委員会委員数：16名，委員会開催数3回）

４．１　開催要領

日本建築学会北海道支部　第 85 回研究発表会
日時：2012 年 6 月 30 日（土）－７月１日（日）（受付 9：00－）
場所：北方建築総合研究所（旭川市）
参加者：約 200 名

４．２　実行委員会

①実行委員会委員　［主査］高井，［構造］前田，植松　［材料施工］谷口，桂田［環境工学］斉藤(幹事)，森　［建築計画］森，野村，竹内　［都市計画］久保，片山　［歴史意匠］羽深(幹事)，西澤　［北方住宅］立松　［防災］戸松　［事務局］菊地
②実行委員会開催回数　３回（第１回 12/17，第２回 2 月メール審議，第３回プロ編 4/22）
③実行委員会スケジュール
12/17：第１回実行委員会、11 月末日：建築雑誌入稿、2 月：第２回実行委員会メール審議、1 月：建築雑誌会告、2 月下旬：ＨＰ作成、3 月上旬：ＨＰ原稿募集、4/19：原稿締め切り、4/27：第３回実行委員会プロ編、5 月上旬プロ編校正、5 月中旬：ＣＤ印刷入稿、6 月中旬：ＣＤ発送、6/30，7/1：支部研究発表会

４．３　研究発表会

論文総数　141 題
①所属別論文数
北大 51，北総 16，室工 14，高知県立大 7，道工 6，釧高 6，学園 5，職能 4，近畿大学 4，その他 28
②優秀講演奨励賞（HP にて公表）
計画：植地剛(北海道大学)，北條真伍(北海道大学大学院工学院)，岡部優希(北海道大学)
構造：宮原有史(北海道大学大学院)，田邉祥平(北海道大学大学院工学院)，佐藤圭祐(北海道大学大学院)，澤田耕助(北海道大学)，福田健(室蘭工業大学大学院)，大友啓徳(北海道大学大学院)
環境：尾身佳樹(北海道大学)，徳田彩佳(北海道大学大学院工学院)，二渡直樹(北海道大学)
歴史：草深貴寛(北海道大学大学院)
材料：なし

４．４　特別企画：日本建築学会会長和田章講演会　同日 16:00～17:00

テーマ：会長講演「大きな自然と厳しい自然災害、そして我々にできる 4 つの対策」
講　師：和田章（日本建築学会会長）
会　場:北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所第 4 室(1 階多目的ホール)
挨拶：岡田成幸（北海道大学），司会：高井伸雄（北海道大学），記録：越川武晃（北海道大学）
参加者：102 名

４．５　懇親会

日時：6/30（土）18:00～19:30
場所：旭川ターミナルホテル，会費：一般 5000 円，学生 2000 円
参加者：82 名

５．表彰

５．１　北海道建築賞

（1）北海道建築賞委員会（主査：小篠　隆生君　委員７名　委員会開催数３回現地審査３回）

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・特別賞・奨励賞に相応しい作品を選考し、2012年度で37回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の視点を掲げている。

今年度は、4月15日（木）の応募開始から11月２日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第37回北海道建築賞を実施することができた。

5月 9日(金)：　第1回委員会　応募状況の確認および応募推薦作品の選定、審査方法・スケジュールの確認。

5月18日(金)：　第1回審査会　応募10作品が審査対象作品となることを確認。書類審査で現地審査対象作品6作品を選考。

6月 9日(土)：　第1回現地審査
「さくらインターネット石狩データセンター」「真駒内　土間のある家」「札幌市円山動物園　は虫類・両生類館」（札幌市）

7月13日(金)：　第2回現地審査
「陸別小学校」（陸別町）

8月 2日(木)：　第3回現地審査
「TU3」（伊達市）「函館市縄文文化交流センター」（函館市）

8月29日(水)：　第2回審査会　最終選考を行い以下の結果となった。
・北海道建築賞　　該当なし
・北海道建築奨励賞　「陸別小学校」（小谷陽次郎君、廣重拓司君、岩村友恵君／（株）日建設計、（株）北海道日建設計）
・　同　上　　「TU3」（植田暁君、植田晴日君、菊池規雄君／NPO法人景観ネットワーク、（有）風の記憶工場、ワンダーアーキ建築設計事務所）

11月 2日(金)：　北海道大学遠友学舎にて授賞式および受賞記念講演会が開催され、設計者自身による授賞作品のコンセプト構築と設計プログラムへの展開、その実施プロセスについて詳しく解説された。また、その後記念パネルディスカッションが開催され、建築賞委員会のコーディネートで２授賞者とともに、北海道における建築の在り方を多方面から議論を行い、来場者との議論も含め、建築文化週間の行事としても有意義な建築文化の醸成ができた。

審査員：
主　査：小篠　隆生君
委　員：加藤　誠君，久保田　克己君，君，齋藤　利明君，鈴木　敏司君，平尾　稔幸君
山田　深君

（２）受賞者

◆北海道建築奨励賞　　**植田　暁君（特定非営利活動法人景観ネットワーク）**
作品名―「ＴＵ３」の設計

◆北海道建築奨励賞　　**小谷陽次郎君（株式会社日建設計）**
作品名―「陸別小学校」の設計

（３）審査経緯

今年度の北海道建築賞委員会は、昨年度よりの新体制の２年目で、2012年５月９日、札幌

市内で平成 24 年度の第１回委員会を開催した。今年度の審査方法を審議し、日本建築学会北海道支部として伝統ある本賞の主旨に沿った作品を審査することを委員全員で確認した。その後、応募状況を検討し、委員の中で注目に値する作品を「2011 北海道建築作品発表会」や他の発表作品などの情報をもとに議論し、その中から委員からの応募推薦対象作品として２作品を選び、各設計者に正式な応募手続きを依頼した。
第１回の審査委員会は、５月 18 日に開催され、応募作品が 8 点に前述の 2 作品を加えた計 10 作品を今年度の審査対象作品とした。
応募作品及び応募設計者（応募順）:
① さくらインターネット石狩データセンター（安田孝君／大成建設（株））
② 幌延町生涯学習センター（川上雅彦君、小泉裕美君／北電総合設計（株））
③ -1 知床五湖フィールドハウス・知床五湖パークサービスセンター（知床五湖パークサービスセンター）（川上雅彦君、宮越達也君／北電総合設計（株））
③ -2 知床五湖フィールドハウス・知床五湖パークサービスセンター（知床五湖フィールドハウス）（川上雅彦君、宮越達也君／北電総合設計（株））
④ 陸別小学校（小谷陽次郎君、廣重拓司君、岩村友恵君／（株）日建設計、（株）北海道日建設計）
⑤ TU３（植田暁君、植田晴日君、菊池規雄君／NPO 法人景観ネットワーク、（有）風の記憶工場、ワンダーアーキ建築設計事務所）
⑥ 宮の森の家（前川尚治君／（株）コウド一級建築士事務所）
⑦ 函館市縄文文化交流センター（石黒浩一郎君、菅沼秀樹君、金箱温春君／（株）アトリエブンク、金箱構造設計事務所）
⑧ 真駒内　土間のある家（遠藤謙一良君／（株）遠藤建築アトリエ）
⑨ 神楽岡の家（加瀬谷章紀君、綱川大介君／国際ローヤル建築設計一級建築士事務所）
⑩ 札幌市円山動物園　は虫類・両生類館（斉藤雅也君、塚本篤士君、柳谷宰君、岩本康治君／公立大学法人札幌市立大学、（株）アトリエアク）
審査における評価の視点として、これまでの選考の視点を崩さずに、計画理論や設計・デザインに対しての新しい挑戦や問題意識、新しい生活・環境の構築を目指した意欲とビジョンに対する「先進性」、自然、環境、人間社会総体を含めた時間的、空間的「規範性」、それらを統合して建築としての高い質を確保することを目指す「洗練度」の３項目を共通価値とすることを最初に確認した。その後、現地審査対象作品を選定する書類審査に移った。応募資料の内容を丁寧にトレースし、議論を重ねた末に、現地審査該当作品（順不同）として以下の６作品、①さくらインターネット石狩データセンター、④陸別小学校、⑤TU３、⑦函館市縄文文化交流センター、⑧真駒内　土間のある家、⑩札幌市円山動物園　は虫類・両生類館が選定された。
現地審査は、委員７名の過半数の参加を原則に３回に分けて実施された。６月９日に①さくらインターネット石狩データセンター、⑧真駒内　土間のある家、⑩札幌市円山動物園　は虫類・両生類館、７月 13 日に④陸別小学校、８月２日に⑤TU３、⑦函館市縄文文化交流センターの審査を周辺環境から建築空間の内外まで詳細な観察と、設計者やクライアントからの説明や質疑などを行った。
最終審査会は、8 月 29 日、札幌市内で開催され、現地審査作品を対象に最終選考が行われた。選考審査は、各委員が各作品に対する見解を述べたのち、候補作品の設計者と同一の組織に所属する委員がその後の選考から外れ、候補作品全体について議論、さらには、個々の作品の評価と意義が整理され、長い討議になった。その選考過程で、６作品よりまず、①さくらインターネット石狩データセンターが選考対象から外れ、５作品に絞られた。その上で、各作品に対して評価と意義がもう一度整理された。評価の指標は前述の３つの視点からであったが、その３つをすべて満たすような作品については該当する作品を見いだすことはできず、本年度の北海道建築賞は該当無しという結論になった。その後、建築奨励賞の選考に入り、５作品に対して各委員より再度評価を行った。その結果、⑦函館市縄文文化交流センター、⑧真駒内　土間のある家、⑩札幌市円山動物園　は虫類・両生類館が選考対象から外れ、最

終的に委員全員の合意によって「陸別小学校」と「TU3」を本年度の北海道建築奨励賞とした。
「陸別小学校」は、北海道の中でも特に寒暖の差の激しい気候条件に立地する小学校として、子どもたちが長く暮らす内部空間をオープンで枠にはまらない教育空間として成立させている。その核となる空間が三次曲面の屋根を持つ多目的ホールである。周囲に特別教室を接続させたその空間では、子どもたちの様々な活動が許容され、教育の「場」がアドホックに生じる。地方都市の小規模校ならではの、人間同士のふれあいを大切にした公共施設の持つべき質を獲得した好感の持てる作品として評価できる。
「TU3」は、作者の自邸として、その家族像を色濃く反映した空間構成に特徴を持つ。一見すると図式的な平面構成であるが、最小限の曲面壁によって必要かつ十分な生活の「場」が巧みに獲得されている。しかも、それらを構成する建築構成単位には、作者の緻密な技術へのこだわりが見て取れ、洗練されたデザインと快適な生活を両立させることができる北海道の住宅建築の新たな方向性を伺うことができる作品である。
今回建築奨励賞になったこの２作品から見えてくることは、単なる空間ではなく、建築を使う人間が活動する場所をどのように構築するかについての作者のこだわりである。２つの作品は、小学校と住宅といったジャンルの異なったものであるが、この場所の獲得のために様々な建築技術を洗練させながら用いている。しかし、それらの技術は、数値で表せる快適性を求めるためだけに用いられているのではない。建築性能を数値化してあたかもそれだけが快適性を表す指標であるということが、住宅にも公共建築にも蔓延する中で、本来、建築を使う人間にとっての、人間のための場所とはどのように獲得され、あるいは獲得するのかをこの２つの作品は、問いかけているのではないだろうか。これは、古典的な命題とも言えるが、北海道建築賞の評価軸としての規範性の解釈として改めて今回の選考で光を当てることができたのではないかと考えている。
現地審査６作品のうち、４作品は残念な結果となったが、評価の要点を以下に述べ、今後の活躍に期待したい。

- さくらインターネット石狩データセンター：高度情報化社会の基盤となるが故に、その安全性と持続性が最高度に求められているデータセンターである。北海道の寒冷な気候を活かして、外気を直接サーバーから出される熱の冷却に使うというシステムを採用した。しかし、まだ全体計画の１／４程度しか稼働されていないのに加え、夏期のデータがなく、冬期、夏期合わせた年間における運用実績からはじめてこの建築が採用したシステムを評価できるであろう。
- 函館市縄文文化交流センター：縄文期の遺構や遺跡などが豊富に出土する地域において、国宝に指定された中空土偶が発見されたことによって、その展示も含めた中核施設をつくることを目的に行われたプロポーザルにおける実施作品である。長く湾曲する壁を前面道路と古代の遺跡群を隔てる結界として屹立させ、それに沿って展示空間を配置するという構成は、施設の目的とも合致し、好感が持てる。また、教育委員会の担当者との歴史展示だけではなく体験的学習を織り込んだ総合的な博物館のあり方に対する追求も、これらの公共施設を設計・建設しようとする時に必要不可欠の姿勢であり、評価できる。しかし、残念なのは、国宝の安定的保存を最大の目的とする文化庁とのやりとりの中で、将来遊歩道などの整備も検討されている遺跡側への開放が果たせなくなってしまい、展示と実際の遺跡体験というダイナミックな構成が取れなかったことである。今回の審査を通じて感じたこととして、今後の公共施設の質を高めていくために、設計者と施主である行政、さらにその監督官庁の間を調整できるコーディネータ役をおいて、設計段階の調整を進めることが必要であるということである。せっかくプロポーザルまで行っていながら、その意図が実作として結実されないのは、このような調整役がプロポーザル後にもプロジェクトに関わっていくことの必要性を如実に表している。
- 真駒内　土間のある家：設計者と施主との寄り添った関係と、施主の要望を巧みに実現することのできる力量を兼ねそなえた設計者だからこそ達成できる施主のライフスタイルが

そのまま内外の空間に表現された住宅作品である。上質なものを上質につくり上げる方向性には、敬意を払いつつ、その過程には、すでに既視感的な結果が想定され、建築というものを通じて発揮するべき、先進性への希求が見えなかったのが残念である。

● 札幌市円山動物園　は虫類・両生類館：建築環境の視点から動物の飼育環境と展示という２つの機能を持つ施設を見直すという新たな姿勢に大きな可能性を感じつつ審査を行った。結果の展示だけでなく、飼育の過程などを見せるプロセス展示など現代のミュージアム計画で求められているテーマを取り込んだり、は虫類・両生類という飼育に特異な温熱環境を必要とする生物の管理を建物総体の室内環境技術と連動させるなどの挑戦には好感が持てる。しかし、かなりタイトな面積設定だったとは言え、見る側の人間にとっての「場所」をつくり出す配慮が足らなかったところが残念である。新しい時代に対応する園舎を本当に望むのなら、設計者側の提案に応じた面積に対する融通性が発注者側にもあってしかるべきである。公共建築の質をどのようにつくるかを改めて考えさせられた作品である。

（文責：小篠　隆生）

（４）審査講評

◆　北海道建築奨励賞　「ＴＵ３」

描かれた平面プランと実際の空間から受ける印象が大きく異なる建築である。図面から受けた印象では、四角い箱にアメーバー状のコアが4つ入っているだけの空間で、隙間の変化と連続性が面白そうだと思いつつも、それが最近の建築によく見られるシンプルな不定形空間に類したものなのか、そうではなくて独特の力を持ったオリジナルな空間なのかは解らなかった。

しかし実際に訪れてみると、外部空間はこの場所の歴史的背景と街区の家並を緻密に調査してそれらの要素が織りなす文脈を周到に読み解いたうえでさりげなく構成されていた。静かに存在を主張しつつも決して突出せずに微妙に周辺と調和した佇まいは秀逸である。

内部空間は全く予想できなかった力強さに溢れていた。設計者は薪ストーブコーナーについて「火を慈しむ原初的な経験の場を維持したい」と説明しているが、そもそも人が憩う場所とは窪みであり房である。数万年の昔から人々は洞窟などで暮らし続けて、その後住居を作り出したがその原点は房である。そこで生きることの基本は食う・寝る・育てる
・作るといった行為であり気・光・火・水が主要な要素であることは現在でも変わらない。

この家は原初的な空間に満ちている。房としての空間があり、太古からの感覚を彷彿とさせながらの21世紀の生活を成り立たせている。洞窟・竪穴住居・伝統的歴史的住居・近未来的非個室型住居など古今東西の様々な住まいの要素が凝縮されている。

4つのコアのうち、分厚いアクリの曲面で囲まれた中庭は、ショールームのような冷たい硬さを予想したが、むしろ鈍重でシンプルな光に満ちていて、月明かりの時を是非とも経験したい想いにかられた。寝室は、3人という数に規制されるものの、まさに地下住居のような房そのものである。イングルヌック（スコットランド語で暖かく居心地の良い場所）と名付けられた薪ストーブコーナーも、火と人との縁のようなものを想起させる。小部屋は、頭だけ空中に出せる小さなトップライトと相まって楽しく籠れる場所である。

四角い外壁に囲まれたコア以外のスペースはもちろん単なる余白ではなく、主要な生活スペースであり、連続的に変化する濃密な空間で作る・食べる・くつろぐ・読むなどの行為が行われる。直線的均質空間の中での暮らしは数千年の歴史を持っているが、この家の不定形空間は数万年か数十万年の時の流れが息づいているかのようである。

水平力を負担する断熱パネルや、枠を見せない開口部・隠しスイッチなどの突詰められたディテールも傑出した完成度の一端を示している。

なによりも評価したいのは、この建築には永くゆったりとした時間が感じられ、人間の遺伝子的感性を刺激して、住居の根源を垣間見せてくれることである。

（文責：平尾　稔幸）

◆　北海道建築奨励賞　「陸別小学校」

近年、北海道で建築される学校建築の空間の質が上がってきている。地場材としての木材の積極的な活用と、積み重ねられた寒冷地の建築技術が自由で豊かな空間の獲得を可能にしている。

地域の子供達は、幼児教育、小学校、中学校を通じて同じ境遇、同じ空間で永い年月を共に過ごすこととなる。父兄を含めて考えると、地域にきわめて密着した重要な施設である。

この新しい小学校も、生き生きとした子供達の活動の場として機能している、来訪者に接する時の子供達の明るい快い受け答えからもそれを感じることが出来た。

陸別小学校は、既存の体育館をリニューアルして残しながら計画された、平屋建ての木造を感じさせるコンパクトな小学校である。陸別町は、北海道の中でも寒暖の差がきわめて大きく、厳しい気候条件の地域である。小学生達の活発な活動を確保するためには、断熱、気密、環境づくりとしての設備計画等の高い建築技術の水準が求められる。環境負荷の低減のみならず、自然光や通風への配慮など、子供達の生活空間としての快適な空間を確保する事にこのプロジェクトは成功している。

小学校全体を通して、木材がふんだんに用いられている。構造材、床や壁などの仕上げ材、とりわけ子供達が肌で接する箇所は優しいディテールで木材の持つテクスチャーと触れることが出来る。皮膚から吸収されるものに対する感覚と価値観は、子供達の今後の成長に大きく左右することになるだろう。

多目的ホールは、本計画の大きな特徴でもある。昇降口に接した大きな空間は、音楽室、家庭科室、理科室、図工室などの特別教室にも接し、特別教室での活動と分節されながら一体となっている。図書スペースも兼ねた大きな空間は、子供達の目的外の活動を許容する自由度の高い使い方が想像できる。空間的には、三次元の曲面で変化する空間が、大きな空間の持つ単調さを減じ、子供達の活動の新しいきっかけを誘発しそうだ。普通教室の北面に連続するワークスペースも教室との境界を曖昧に連続し、オープンで枠にはまらない教育の空間として、魅力的な空間として実現している。

山あいに建つ小学校は、控えめに構成され水平線の軒線と、緩やかにふくらむ多目的ホールの屋根型のシルエットがこの小学校の性格を示している。おさえられた黒に近いモノトーンな建物の色彩計画は、緑の多い背景と合わさり、新しい風景を生み出した。

子供達は隣地の木造の陸別保育所を卒園し、この新しい空間で更に６年間を暮らす事になる。この作品の持つ、地域の子供達の為のあたたかい空間の在り方は、今後の北海道の学校建築の中で継続・発展させてゆくべき質を多く含んでおり、優れた作品として評価できる。

（文責：鈴木　敏司）

５．２　卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（１）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原　秀見君，委員数：6 名，委員会開催数：1 回）

2012 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞 1 点、銀賞 2 点、銅賞 1 点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 2 点を「工業高校」の部では金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 2 点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：
主　査：菅原　秀見君
委　員：小倉　寛征君，上遠野　克君，小西　仁彦君，齊藤　文彦君，中山　眞琴君

（２）受賞者

◆ 大学の部　（応募作品数：12 点）

・金賞　　浦本　義幸君：北海道工業大学空間創造部建築学科
　　作品名　―　秩序のざわめき
・銀賞　　丹治　和仁君：北海道工業大学空間創造部建築学科
　　作品名　―　さまよえる遺骨たち
　　ーアイヌ鎮魂を願う納骨堂再建計画ー
・銀賞　　前田　孝輔君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
　　作品名　―　まち、くべる、かま
・銅賞　　阿久津　翼君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
　　作品名　―　交錯する図書館ー静かで賑やかな場所ー

◆ 短大・高専・専門学校の部　（応募作品数：4 点）

・金賞　　臼井　寛弥君：釧路工業高等専門学校建築学科
　　作品名　―　孤独死０（ゼロ）のまち
・銀賞　　三木　翔平君：釧路工業高等専門学校建築学科
　　作品名　―　空間（くうのま）
・銅賞　　大島　尚人君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
　　作品名　―　「自然」と「農業」
・銅賞　　山田　竜平君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
　　作品名　―　delta　space

◆ 工業高校の部　（応募作品数：9 点）

・金賞　　天野　智佳君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
　　作品名　―　むすびらき
・銀賞　　秋山　愛斗君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
　　作品名　―　HORIZON　OTARU～Roadside　Station～道の駅
・銅賞　　長谷川　歩君：北海道札幌工業高等学校建築科
　　作品名　―　イースター美術館「eggs」
・銅賞　　中川　一輝君：北海道旭川工業高等学校建築科
　　作品名　―　水の劇場～流れる水と音～

（３）審査講評

◆大学の部

金賞・浦本君

　若い建築家の作品に多いのだが、偶発的で形態的で理屈過多の建築に、私だけでなく多くの人が閉口している。というのもこれらの特徴を除いたら何も残らないからだ。
雑誌に取り上げられ有頂天になっている建築家よ、もっと時間に耐える建築を作ろう！と思っていたら、「秩序のざわめき」を審査。
なんだ、何とか風と思いきや、巨匠？達とは違うぞ。何かとっても幸福感を覚える。この類（失礼）はきらいなはずなのにどんどん引き込まれる。建物同士の関係も新たな「個」の有り方を考えさせられるし、微妙な変化は決して偶発的ではない。計算されているのに作為を感じない。２方向避難まで考えられている。ただただ美しいだけではないのだ。
私の中に長く記憶に残る作品となるだろう。

（文章　中山眞琴）

銀賞・丹治君

　北海道の先住民族アイヌは死者を自然に帰す意味で亡骸を土葬にする。墓には墓標もなくまさに森の中の樹林の間に穴を掘り埋葬する。
文字がなかったアイヌは記録がなくその先住民族の調査のために北海道大学が発掘により人骨を収集し研究を行っている。
その亡骸を葬るための施設として計画されたこの建物は千歳川の支流に聖地をつくり、北海道全域から収集された遺骨をかつて埋葬されていた各地へ放射状に延びる軸線上に石棺を配列し安置する計画となっている。
それらの石棺の数の多い少ないにより自然にランダムな状態となり、それは一つの造形を成している。また軸線の中心には直径１００m近い皿状の鉄の水盤が浮いており、「あの世」と「この世」を分ける装置として天水を受けている。さまよえる遺骨たちはようやくこの地に眠ることができる。
造形力を感じるこの作品のよさは、計画の根拠と手法が素直に受け入れることができることであり、大地にかすかに浮かぶ水盤の迫力である。これらが相俟って鎮魂に対する静寂感が醸し出された美しい秀作として評価された。

（文責：小西　彦仁）

銀賞・前田君

　急速な人口減少、高齢化社会を迎える北海道森町における「まち」と「産業」を支える建築の提案である。
建築を作ることで持続可能な地域を作りたいという思いに好感が持てる。その為に、従来から続く地域産業である「炭焼き」をベースに、持続的かつ前向きに生活を続けていくための社会モデルとそれらを実現する建築システムを提示した点、それらが緻密な調査と分析に基づく点を高く評価した。また、「炭焼き」と「地形」から生まれる建築郡が、必然性を備えた独自の風景を形成していくという提案も興味深い。建築の内部空間がより詳しく提示されればさらに魅力的な作品となっただろう。今後の展開に期待出来る作品である。
以上を総合的に考慮して銀賞にふさわしい作品であると判断した。

（文責：小倉　征寛）

銅賞・阿久津君

　様々な大きさと角度を持つスラブが積み重なり、大小の隙間が視線と動線に多様性のある空間を作り出している。平面に見られる室と室の隙間が巨大なマスとしてのボリュームに特徴を与えている。ただ、立面における既視感や色彩計画、敷地設定については、整理されていない印象があった。コンセプトワークのみの表現やアート的な表現に陥らることなく真摯に建築に取り組む姿勢を評価するとともに、今後の期待をこめて、銅賞とするものである。
建築というものは最初この作品のようにぼんやりとしたイメージで白濁した気憶から晩起される。

（文責：齊藤　文彦）

◆ 短大・高専・専門学校の部

金賞・臼井君

釧路川のほとりを舞台とし、孤独死という社会問題の焦点を当てた作品である。高齢者の生活と地域の関わりが少ないこと、地域に活気がないこと、これらを解決するという強い目的意識を基軸とし建築が構成されている。都心居住と商店街との複合は発想しては単純であるが、「小規模多機能ホーム」という生活支援の場やオープンスペースをつくり、裏通りでこれらの交流の場を巧みに結びつけている。分節された機能は柔らかい曲線を持つ大きな屋根で覆われており、建築全体に優しい表情を与えている。問題意識から目標の設定、解決方法が優れており、建築としても破綻なく綺麗にまとめらていることから金賞に値すると評価した。

（文責：菅原　秀見）

銀賞・三木君

利休は云った。「黒は古き心なり」
この作品（くうのま）は全体的にまっ黒である。
作者にとって、毛綱さんも安藤さんももう古き人なのかなと思えるほど良く似ている。線のタッチはばらばらで、まだスケッチ風とは言えないが、それでも何かを追い続ける姿勢はすごい。
建築の第一歩は模倣から始まる。決して辱めるつもりはない。全ての建築家はここから登るからだ。
これからも遺り遂げようとする意気込みを保ちつづけてほしい。

（文責：中山　眞琴）

銅賞・大島君

農業の盛んな地方都市の街内に計画された農業体験施設です。ビニールハウスと４棟の施設で広場を囲む特徴的な屋根をもって多様なアクティビティが可能な場を、上手に形成していると思います。外観のイメージ、仕上のイメージもＣＧパースから良く感じとれます。冬期間の利用形態イメージ、又中央公園との関係性等の課題はありますが、テーマの設定、計画のまとめ方、プレゼンテーション等、優れた作品です。

（文責：上遠野　克）

銅賞・山田君

この作品は、札幌市の旭山記念公園の西斜面に計画された美術館である。この斜面の扇状をコンセプトに造形を導き出している。扇形が持つ特徴である拡散と集合をキーワードに、そこに円弧による誘導性を導入して最終的には斜面と巧みに融合させながら計画された建物はランドスケープと一体となっている。
この場所の特性そして建物をつくる上でのコンセプトワークが破たんすることなく最後までまとめられている。この作品が持つ幾何学的造形と周辺環境をうまく調停しながらつくられていることが評価された。

（文責：小西　彦仁）

◆ 工業高校の部

金賞・天野君

北海道の多くの地方としてでは郊外での商業施設の繁盛により駅前の商店街が衰退している、この作品は名寄市の駅前商店街の活性化に正面から取り組んでいる。現存する店舗にひと工夫加える活用案、デザインコードの提案など古いものと新しいものを融合させようとする具体的な提案がこの作品の魅力である。また、「いとなよせ」と名付けられたスカイウォークで店舗を結ぶことにより、人々の心をつなぐ場を設けている。ここでは柔らかい光を生み出すために和紙を用い交流の場として優しい空間をつくっている。郷土愛に満ちたまちづくりの視点からディテールへの気配りまで豊かな振幅を持った作品であり、金賞として評価した。
この場所の特性そして建物をつくる上でのコンセプトワークが破たんすることなく最後までまとめられている。この作品が持つ幾何学的造形と周辺環境をうまく調停しながらつくられてい

ることが評価された。

（文責：菅原　秀見）

銀賞・秋山君

小樽市張碓に道の駅を計画したものである。「アオバト」をモチーフとして、その平面に店舗やレストラン、情報コーナーを納め地域の魅力を建築に盛り込もうとした力作である。
道の駅を時間消費型の商業空間とすることで、地域の魅力発信の場を創造しようとしている。
構造、設備においても言及し、テナントに想定した民間企業や関係するＪＲに計画を説明するなど、これまでの高校卒業設計の枠を超えた行動力と表現力に銀賞を与えるものである。

（文責：齊藤　文彦）

銅賞・長谷川君

一般の人々が気楽に展示や美術学習が出来る新しい美術館の提案である。
様々な大きさの「卵形」の建築が並ぶ風景は、印象的でどこか楽しげな雰囲気を醸し出しており、設計者の意図する美術館にふさわしい建築を表現出来ている。また、搬入や管理、防災、警備まで配慮したゾーニングや動線計画をおこなうことで、デザインに具体性とリアリティーを与えることにも成功している。さらに、様々な色や表現手法を活用して個性的な建築デザインを上手にプレゼンテーションしている点も高く評価された。
以上を総合的に考慮して銅賞にふさわしい作品であると判断した。

（文責：小倉　寛征）

銅賞・中川君

旭川の買物公園に面して、水をイメージ化したイベント施設の計画です。コンクリート、ガラス、木といった素材でシンプルに構成され、又客動線、管理部門の計画がきちんとされています。何よりもの水面に映り込む内部のステージ客席のイメージがＣＧパース等で美しく表現されていて、高いレベルの作品になっています。建物周囲を全面芝生で囲っていますが、買物公園に面した所は歩行者が気軽に立入れる工夫がされると、より街にとけ込んだ作品になったと思います。素晴らしい作品です。

（文責：上遠野　克）

５．３　優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2012 年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

卜部　真実君・小松　研介君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
角森　仁美君・長谷川拓也君：北海学園大学工学部建築学科
岡本　純平君・小泉　勝嵩君：北海道工業大学工学部建築学科
杉山謙一郎君・CHOW CHEE HANG 君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
山下　祥吾君・及川　孝樹君：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科
神保　達郎君・吉田悠一郎君：道都大学美術学部建築学科
小野島　新君・福嶋　沙織君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
藤原なつみ君・UK VICHETCH 君：釧路工業高等専門学校建築学科
湊谷　佳子君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
古川　諒一君：北海道職業能力開発大学校建築科
大柳　朋裕君：北海道札幌工業高等学校建築科
原田　　凌君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
秋山　愛斗君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
根田　洋介君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
工藤　未来君：北海道函館工業高等学校建築科
該当者なし　：北海道函館工業高等学校定時制建築科
室屋　哲也君：北海道旭川工業高等学校建築科
稲垣　昌平君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
青塚　昇平君：北海道苫小牧工業高等学校建築科

福田　直人君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
藤倉　王熙君：北海道帯広工業高等学校建築科
相馬　浩貴君：北海道釧路工業高等学校建築科
菅野　大樹君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
柴田　紗華君：北海道室蘭工業高等学校建築科
該当者なし　：北海道留萌千望高等学校建築科
三科　舞華君：北海道北見工業高等学校建設科

５．４　日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。
2012 年度は、最も長期にわたり支部会員を継続された以下の１社の法人・賛助会員を表彰した。
北電興業　株式会社

５．５　日本建築学会北海道支部技術賞

（１）　北海道支部技術賞選考委員会（主査：佐藤　　孝君，委員数：10 名　委員会開催数 2 回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，各専門委員会主査の計 10 名
開催日時：
第 1 回 1 月 29 日(火)16:00～18:00
専門選考部会 2 月 27 日(水)19：00～20：00
第 2 回 3 月 7 日(木)16:00～17:30
場所:日本建築学会北海道支部会議室

⑵受賞者
◆北海道支部技術賞　　亀田　宏君（亀田工業株式会社）
若浜　宗君（亀田工業株式会社）
氷川貢司君（亀田工業株式会社）
村上淳二君（亀田工業株式会社）
杉目千秋君（亀田工業株式会社）

表彰技術名―道内歴史的建造物の保存・修復技術に係る建築技能の継承

⑶審査経緯・講評
本賞は、北海道における創造性豊かな建築・都市に関する技術の開発者、継承者等を表彰することにより、北海道の建築界の技術の向上に資するために設けられた賞である。2012 年 11 月 15 日～2013 年 1 月 15 日の応募期間に 3 件の応募があった。
北海道の建築界の技術の向上に資するものであることを，地域性、独自性、有効性、新規性に加えて継承性、継続性の６つの観点から評価する評価基準に従って、第 6 回北海道支部技術賞選考委員会を計 2 回に加えて、専門選考部会１回を開催して審査した結果、1 件の表彰対象者を決定した。
当該技術の特徴として以下の点が挙げられる。
受賞の亀田工業株式会社は、江差町を拠点において、地域柄 主に日本海側に点在する漁家建築の保存修復を通じて歴史的建造物の保存改修技術の習得を積み、国指定重要文化財旧中村家住宅保存修理工事（江差町、1982 年３月竣工）を始め、近年では国指定重要文化財旧笹浪家住宅保存修理工事（上ノ国町、2008 年８月竣工）、国指定重要文化財「八窓庵」等復旧工事（札幌市、2008 年８月竣工）を行い、30 年以上の永きにわたり国や北海道、市町村の指定有形文化財の保存修理工事を担ってきた。これら北海道における歴史的建造物の保存・修復工事の多くは、特に積雪寒

冷地の特性から生じる課題を科学的かつ経験に基づいた技術、技能によって遂行し、北海道の文化財の維持に貢献してきた。

地域特性に配慮した技術の一つには、凍害に弱い軟石材を基礎に用いる場合の保存・修復技術がある。上ノ国勝山跡(たて)内米・文庫蔵組立復元工事では、基礎上部の笏谷石(しゃくだにいし)を凍害に強い札幌軟石に置き換え、地面下の貴重な基礎材料であるバン屑（硬質粘土材）の劣化部分補強と凍結深度を考えた保存・修復技術である。また北海道指定有形文化財旧檜山爾志(にし)郡役所庁舎保存修理工事では、笏谷石基礎を凍害からまもるために暗渠排水を施すことにより、積雪寒冷地に建つ歴史的建造物の現状の構造等を損なう要因を最小限に抑えた。

外壁漆喰壁の凍害対策としては、国指定重要文化財旧中村家住宅保存修理工事では石灰と貝灰の比率を変えて撥水効果と耐久性を向上させた。あるいは五稜郭跡箱館奉行所庁舎復元工事では、漆喰の稲藁にクローバーを混入させて微生物の発酵分解の効果による工期短縮を図るなど寒冷地での課題を解決してきた。

受賞者は、これら北海道の固有の伝統的建築技術・技能の多くを保有しており、道内の歴史的建造物の保存のために、積雪寒冷地での伝統的建築技能の継承と後継者の育成に取り組んでいる。選考基準にある地域性、継承性に相当し、北海道の建築界の技術の向上に寄与している。よってここに日本建築学会北海道支部技術賞を贈るものである。

（文責：佐藤　孝）

６．北海道建築作品発表会の実施

（１） 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田　浩志君，委員数：3 名，実行委員数：10 名，委員会開催数：5 回（実行委員会 4 回を含む））

2012 年 12 月 5 日の発表会に向けて第 32 回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3 名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は 1 回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員 7 名が加わった実行委員会は 4 回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第 32 回建築作品発表会作品集 VOL-32 を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2012 に実行委員の本井和彦氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2013/2 月号に米田浩志が執筆した。

（２） 北海道建築作品発表会の開催

第32回建築作品発表会の報告

期日：2012 年 12 月 5 日（水曜日）
会場：北海道立近代美術館講堂
発表作品数：25 作品

今年も北海道建築の一年間の総括の場といえる第 32 回北海道建築作品発表会が開催された。12 月 5 日と年末の慌ただしい時期とはいえ、作品発表の積極的な登録と共に、様々な年齢層及び職種の方々含め多くの参加者があった。建築作品発表会のプログラム構成は、第 1 部、2 部の各発表に加え、第 3 部には全発表作品を横断しながら議論を深めるための「フォーラム」が配置された。第 1 部、2 部の発表では、簡単な質問の受け答えはあるものの時間の制約もあって深い議論はできない。そのため、第 3 部にフォーラムの時間を確保し司会者が様々な切り口をもって、あらためて各作品の特性、あるいは作品間の共通性に着目し議論を進行させ、2012 年の北海道建築界の一側面を明らかにすることになる。一方、オーディエンスは、発表者たちの議論を目の当たりにしながら、自らも自らに対して対話を生み出す。この自己との対話からは、何かがふつふつと喚起され、今後の建築を捉えていく上で有益な観点を獲得することが出来る。このように、こ

の建築作品発表会は、現状の問題意識を共有し、そして建築をさらに進化させていくための動機付けの機会となってきた。あらためて 32 年間の建築作品発表会の歴史は、北海道建築を成長へと導くための一つのステージとして機能してきたと言える。

７．特別委員会

７．１　事業主査連絡会（事業系５委員会の主査および事業系担当常議員）

本連絡会では、事業系 5 委員会の事業進捗状況と連携、その際の問題点等の把握、常議員会へ改善提案等の活動を行うこととしている。過去議題にあがった事項の対応として、本年度についても建築文化週間中に第 38 回の北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施された。また、卒業設計審査委員会より出されていた HP への入選作品の掲載については、HP 管理委員会との連携し最新年度までが掲載されている。

７．２　総務委員会（委員長：小澤　丈夫君，委員数：5 名，委員会開催数 1 回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会（1 回）を開催して、両団体の活動に関する情報交換を行った。また。両団体の合同企画として、ジョイントセミナー（1 回）を実施した。

７．３　ホームページ管理委員会（主査：斉藤　雅也君，委員数：3 名，メール等による情報交換を数回実施）

１）常議員会、事務局等の要請に応じて掲載内容の更新作業を行なった（2 週に一度のペース）。
２）必要に応じて、委員間でメール会議を実施した（数回）。
３）本部の学術推進委員会より活動の活性化へ向けた取り組みとして、特に「電子情報メディア化の推進」が展開されることになり、北海道支部からは2012年度は委員長の斉藤が担当した。

７．４　雪害調査特別委員会（主査:草苅　敏夫君，委員数:8 名，委員会開催数:2 回）

豪雪により大きな被害が生じた空知地方を中心に、2012 年 2 月から 3 月にかけて、委員が分担して被害調査を実施した。第 1 回目の委員会にて調査内容が報告され、使用されていない住宅や施設建物、農業施設等における被害が大きいことが特徴としてあげられた。第 2 回目では、今後の活動の方向性について検討し、建物の継続的な調査や農業施設に対する研究の必要性が確認された。その後、雪が降る前を目標に、以前に調査した建物の状況について確認する活動を行った。また、本委員会の活動については 12 月に開催された構造専門委員会と都市防災専門委員会の合同委員会において報告が行われた。
なお、本委員会の活動内容の一部は、平成 25 年度における「特色ある支部活動」として採択されており、来年度はそちらで活動を継続する予定である。

８．講習会・シンポジウム等の開催

８．１　講習会

（１）　本部主催講習会

該当なし

（２） 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

８．２　講演会

（１）本部主催講演会

該当なし

（２）支部主催講演会

名　　称	期　日	会　場	講　師	参加者数
記念講演会「大きな自然と厳しい自然災害、そして我々にできる４つの対策」	2012.6.30	北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所	和田　章君	102 名
「北海道の建築家、その活動の歴史」	2012.9.27	北海道旭川工業高等学校	原　朋教君	80 名
建築文化週間「第 37 回北海道建築賞表彰式・記念講演会」	2012.11.2	北海道大学遠友学舎	植田　暁君 小谷陽次郎君	約 80 名
第 32 回北海道建築作品発表会	2012.12.5	北海道立近代美術館講堂	作品数 25 点	約 200 名
「建設業・現場監督の仕事について」	2012.12.11	北海道帯広工業高等学校	進藤毅幸君	89 名

（３）支部委員会主催講演会

名　　称	期　日	会　場	講　師他	参加者数
シンポジウム「創成川後援からひろがるイーストのまち～これから何がおこるのか？～」(都市計画専門委員会)	2012.8.2	札幌市立大学サテライト大会議室	星　卓志君 他 2 名	約 60 名
「緑川光正先生日本建築学会賞受賞　記念講演会」 （構造専門委員会)	2012.9.15	センチュリーロイヤルホテル	緑川光正君	49 名
建築文化週間「地震防災体験学習 in　あっけし」(都市防災専門委員会)	2012.10.20	厚岸町真龍小学校	北大, 釧路高専, 北総研他	45 名
シンポジウム「30 年後の北海道の生活と住まい」 (委託研究調査委員会 : 北海道の居住水準検討委員会)	2013.1.23	紀伊国屋書店札幌本店 1 階インナーガーデン	金子　勇君	80 名
第 7 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs11 (環境工学専門委員会)	2013.3.8	室蘭工業大学	発表題数 32 題	65 名

８．３　展示会

開催日	名　　称	会　　場	参加者数
2012.5.16 ～5.18 6.3～6.5 9.27～10.1 11.19～22	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 東海大学 釧路工業高等専門学校	173 名 120 名 128 110 名
2012.6.25 ～11.30	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 458 名

８．４　見学会

開催日	見　学　場　所	解説者	参加者数	主　催
2012.10.15	「どうぎんカーリングスタジアム」見学会	現場担当者	20 名	環境工学専門委員会
2012.11.2	「琴似 4.2 地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事」見学会	現場担当者	42 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
2012.12.6	「北海道工業大学　新体育館HIT ARENA」見学会	佐藤　孝君 魚住昌広君	20 名	環境工学専門委員会
2013.1.18	「北栄興業㈱恵庭工場」見学会	現場担当者	22 名	構造専門委員会

９．本部関連事業・その他

９．１　2011 年度支部共通事業設計競技の実施

（１）共通事業設計競技審査委員会（主査：川人　洋志君，委員数：5 名，委員会開催数：1 回）

支部審査員：
主　査：　川人　洋志君
委　員：　赤坂　真一郎君，小西　彦仁君，那須　聖君，山之内　裕一君

（２）審査講評

委員会活動として設計競技審査会を 2012 年 7 月 18 日、午後 6 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「あたりまえのまち/かけがいのないもの」であり、8 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て 2 案を支部入選案として決定した。

2012 年度支部共通設計競技「あたりまえのまち/かけがいのないもの」審査評

設計競技審査会を 2012 年 7 月 18 日、午後 6 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「あたりまえのまち/かけがいのないもの」であり、8 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て 2 案を支部入選案として決定した。入選案 2 案とも道内からの応募であった。支部入選案 2 案は、残念ながら全国審査で入選はなかった。今後の進展を期待したい。以下に支部入選 2 案の審査評を記す。

田中元-北海道大学大学院工学研究院　共同制作者-植地剛　案

まちが消える。
人口減少の進むこの国において、そして、ここ北海道において、このことは、必然的未来といっても過言ではない。今回の課題への作者の応答は、“あたりまえのまち”が消えるという、抗しがたい時代の流れで起きる、あるいは起きようとしている切実な地点から始められている。そんな小さなまちの風化していく記憶を未来に接続させる場所、そしてそのまちの痕跡を豊かな自然へと帰し、持続的に保全していく拠点を、まちを経由し都市と都市をつなぐ巨大インフラに寄生するように発生させることで、機能的、即物的な枠組に回収されてしまった巨大インフラの風景ばかりか、悲愴的に捉えられがちな未来に与えられるであろう、新たな積極的可能性を淡々とした表現のうちに具現化しようと試みたこの作品は、審査当初より審査員の多数から支持を得た。

（文責：川人洋志）

長沢麻未-札幌市立大学３年　案

高齢化が進む札幌市郊外の団地と、空洞化が目立つ団地付近の商店街を結びつけ、かつては何処にでも見られた、近隣の繋がり、助け合いを視覚化しようとする提案である。かけがえのないものを再発見し、その意味と価値を未来へと架け渡していくための建築的介入が求められたこの設計競技において、提案された空間が、どのようにその役割を担うのか、具体的な方法やデザインの決定性に多くの疑問は残ったが、最終候補数案に比べ、人々の生活に寄り添った提案であることが、相対的に評価された。

（文責：赤坂真一郎）

９．２　作品選集支部選考の実施

（１）　作品選集支部選考部会活動報告（主査：小澤　丈夫君：委員数 8 名：委員会開催数 2 回及び　現地審査）

2012 年度応募数全 7 作品に対して、3 日に渡る現地審査（日程の都合上、一部は委員個別の現地審査による）並びに 2 回にわたる選考委員会を開催し、本部にて決定された支部推薦枠である 4 作品を選考し本部へ推薦した。

審査員：主査：小澤　丈夫君
委員：植田　暁君，海藤　裕司君，加藤　誠君，下村　憲一君，高松　康二君，
那須　聖君，山脇　克彦君

（２）作品選集支部選考の結果

支部応募作品数　7 点
支部選考通過作品数　4 点（本部採用 3 点）

作品選集掲載作品
・TU3（作品選集掲載作品）
植田　　暁君 ： 景観ネットワーク
植田 晴日君 ： 風の記憶工場
菊池 規雄君 ： WANDERARCHI

・陸別小学校（作品選集掲載作品）
小谷 陽次郎君　 ： 日建設計
廣重 拓司君　　 ： 日建設計
岩村 友恵君　　 ： 北海道日建設計

・石狩市こども未来館（あいぽーと）（作品選集掲載作品）
　　下村 憲一君　　：元北海道工業大学
　　加藤　 誠君　　：アトリエブンク
　　長谷川 大輔君　：長谷川大輔構造計画

９．３　建築文化週間

①テーマ：歴史的建造物の見学「建築散歩ー北彩都・旭川編」
　主　催：日本建築学会北海道支部
　共　催：旭川市の歴史的建物の保存を考える会
　後　援：日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、旭川市教育委員会
　日　時：2012.10. 13(土)
　場　所：旭川市
　主な見学先：旧松浦家養蚕民家、高砂酒造工場（木造・RC造）、旧忠別太駅逓、上川倉庫群（明治20年代より）、JR北海道旭川工場木機乾燥場（旧北海道鉄道旭川工場鍛冶工場、明治32年）など。
　講　師：川島洋一（東海大学）
　参加対象：会員，一般市町村民，行政職員
　参加者：26 名

②テーマ：「地震防災体験学習 in　あっけし」
　主　催：日本建築学会北海道支部、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所
　共　催：厚岸町
　後　援：北海道
　日　時：2012.10. 20.(土)
　場　所：厚岸町真龍小学校
　プログラム
　　1. 地震と建物の耐震性の話
　　2. 室内安全対策の話
　　3. 耐震診断の話
　　4. 避難食づくり
　　5. 非常持出し品
　講　師：北海道大学，釧路高専，北総研
　参加対象：町民(親子)，市町村職員，建築技術者，学会員
　参加者：45 名

③テーマ：第 37 回(2012 年度)北海道建築賞表彰式・記念講演会
　主　催：日本建築学会北海道支部
　日　時：2012.11. 2(金)
　講　師：植田　暁「TU3」の設計（第 37 回北海道建築奨励賞）
　　小谷陽次郎「陸別小学校」の設計（第 37 回北海道建築奨励賞）
　場　所：北海道大学遠友学舎
　参加対象：一般市民，建築関係者，学生
　参加者：約 80 名

１０．建築関連団体との活動

１０．１　AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8 名，開催数：1 回）

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第 19 回として 2012 年 3 月 24 日（土）に「私が北海道で学んだこと」講師：荒谷登君（北海道大学名誉教授）

を開催した。

１０．２　北海道建築設計会議　（幹事会開催数：9 回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の 10 団体により構成されている。本会からは、田村隆と最上公一の 2 名を参加させた。
幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

１１．共催・後援

期　日	名　　称	会　　場	主　　催
2012.6.1	「ライフサイクルマネジメント研究委員会活動報告会」	KKR ホテル札幌	(公社)日本コンクリート工学協会北海道支部
応募締切 2012.8.7	第 37 回北の住まい住宅設計コンペ		(社)北海道建築士事務所教会
2012.10.5	「れきけん設立記念講演会」	札幌駅前通地下歩行空間北 3 条広場	NPO 法人歴史的地域資産研究機構
2012.10.16	コンクリートの日 in Hokkaido 出前講座　大学から実務者へ ～情報技術の発信と情報交換～	北見工業大学	(公社)日本コンクリート工学協会北海道支部
2012.10.29	サスティナブルキャンパス構築のための国際シンポジウム 2012	北海道大学学術交流会館	北海道大学
2012.11.2	JIA 北海道支部建築技術セミナー 「身体感覚で学ぶ建築環境性能」	大藤学園 新札幌保育園	(社)日本建築家協会北海道支部
2012.11.20	平成 24 年度地震防災セミナー	新ひだか町公民館	北海道
2012.11.20	「鉄骨造建造物に関する近年の話題と東日本大震災」	北海道建設会館	(一社)北海道建築技術者協会
2012.11.20	「パークマネージメント」～モエレ沼公園の未来をつくるために～	東京ドームホテル札幌	NPO 法人モエレ沼公園の活用を考える会
2012.11.22	「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針　講習会」	北海道大学学術交流会館	(公社)日本コンクリート工学協会北海道支部
2012.12.1	日本都市計画学会北海道支部研究発表会	北海道大学学術交流会館	(公社)日本都市計画学会北海道支部
応募締切 2012.12.15	第 4 回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		(社)日本建築家協会北海道支部
2013.2.14	第 23 回旭川建築作品発表会	旭川市市民活動センター「CoCoDe」	旭川まちなみデザイン推進委員会
2013.3.1	「すべての建築士のための総合研修」	北海道第二水産ビル	(社)北海道建築士会
2013.3.4	「空気調和・衛生工学会北海道支部地区講演会」“環境建築の実現に向けて”	北海道大学百年記念会館	(社)空気調和・衛生工学会北海道支部
2013.3.9	「市民セミナー」	札幌エルプラザ	NPO 法人パッシブシステム研究会
2013.3.14	「第 302 回コンクリートセミナー」	北海道大学学術交流会館	(社)セメント協会
2013.3.15	第 3 回都市地域セミナー 「造園学が震災から学んだ教訓」	札幌学院大学 社会連携センター	(公社)日本都市計画学会北海道支部

Ⅱ　2012 年度収支決算報告

2012 年度　貸借対照表

（単位：円）

	科目名称	当年度	前年度	増減
Ⅰ資産の部	1 流動資産			
	現金預金	2,247,730	2,501,135	△253,405
	未収金	0	0	0
	前払金	163,999	163,999	0
	仮払金	123,365	36,463	86,902
	流動資産合計	2,535,094	2,701,597	△166,503
	2 固定資産			
	(1) 基本財産	0	0	0
	基本財産合計	0	0	0
	(2) 特定資産			
	学術振興基金引当資産	2,810,000	3,080,000	△270,000
	災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0
	支部基金引当資産	2,810,000	2,810,000	0
	退職給付引当資産	720,000	660,000	60,000
	特定資産合計	8,240,000	8,450,000	△210,000
	(3) その他の固定資産			
	敷金	561,550	561,550	0
	その他の固定資産合計	561,550	561,550	0
	固定資産合計	8,801,550	9,011,550	△210,000
	資産の部合計	11,336,644	11,713,147	△376,503
Ⅱ負債の部	1 流動負債			
	未払金	0	0	0
	前受金	0	30,000	△30,000
	預り金	20,263	21,885	△1,622
	仮受金	584,231	586,695	△2,464
	賞与引当金	0	0	0
	流動負債合計	604,494	638,580	△34,086
	2 固定負債			
	退職給付引当金	720,000	660,000	60,000
	固定負債合計	720,000	660,000	60,000
	負債の部合計	1,324,494	1,298,580	25,914
Ⅲ正味財産の部	1 指定正味財産			
	指定正味財産合計	0	0	0
	（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
	（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
	2 一般正味財産	10,012,150	10,414,567	△402,417
	（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
	（うち特定資産への充当額）	(7,520,000)	(7,790,000)	(△270,000)
	正味財産合計	10,012,150	10,414,567	△402,417
	負債及び正味財産合計	11,336,644	11,713,147	△376,503

2012 年度　正味財産増減計算書

北海道支部　　（単位:円）

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部							
1　経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 特定資産運用益	(17,691)	(28,294)	(△10,603)	(1) 事業費	(4,368,500)	(4,542,659)	(△174,159)
特定資産受取利息	17,691	28,294	△10,603	研究集会事業費	(2,103,135)	(2,171,091)	(△67,956)
(2) 事業収益	(3,042,923)	(3,100,463)	(△57,540)	研究集会事業費	2,103,135	2,171,091	△67,956
研究集会事業収益	(2,367,923)	(2,425,463)	(△57,540)	文化事業・展示会費	(336,122)	(348,672)	(△12,550)
研究集会事業収益	2,367,923	2,425,463	△57,540	文化事業費	301,940	316,800	△14,860
文化事業収益	0	0	0	展示会事業費	34,182	31,872	2,310
受託事業収益	500,000	500,000	0	調査研究事業費	851,829	996,460	△144,631
その他の事業収益	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費	(670,414)	(619,891)	(50,523)
(3) 受取寄付金	0	0	0	表彰関係費	960,055	909,110	50,945
受取基金寄付金	0	0	0	設計技技費	10,359	10,781	△422
(4) 雑収益	(111,101)	(263,960)	(△152,859)	委託事業費	425,000	424,545	455
雑収益	(111,101)	(263,960)	(△152,859)	(2) 管理費	(5,779,132)	(5,743,188)	(35,944)
受取利息	733	659	74	会議費	(240,020)	(258,570)	(△18,550)
その他の雑収益	110,368	263,301	△152,933	総会費	199,290	192,050	7,240
(5) 他会計からの繰入額	(6,591,500)	(6,650,000)	(△58,500)	役員会費	25,330	66,520	△41,190
基本部門からの繰入額	(6,591,500)	(6,650,000)	(△58,500)	運営費	15,400	0	15,400
支部費	1,488,000	1,500,000	△12,000	給与手当	1,857,760	1,846,650	11,110
経費助成費	1,907,500	1,950,000	△42,500	福利厚生費	314,038	314,309	△271
事業促進費	300,000	300,000	0	退職給付費用	90,000	90,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0	通信費	141,382	128,606	12,776
教育文化事業交付金	538,000	542,000	△4,000	印刷費	82,898	99,992	△17,104
大会交付金収入	0	0	0	消耗品費	85,754	114,374	△18,620
支部事務費	300,000	300,000	0	電算費	0	0	0
支部事務所費	1,858,000	1,858,000	0	雑費	495,443	437,002	58,441
会館部門からの繰入額	(0)	(0)	(0)	事務所費	2,488,174	2,483,685	4,489
支部事務所費	0	0	0	租税公課	3,673	0	3,673
経常収益計	9,763,215	10,042,717	△279,502	経常費用計	10,165,632	10,303,847	△138,215
当期経常増減額	△402,417	△261,130	△141,287				
2　経常外増減の部							
当期経常外増減額	0	0	0				
当期一般正味財産増減額	△402,417	△261,130	△141,287				
一般正味財産期首残高	10,414,567	10,675,697	△261,130				
一般正味財産期末残高	10,012,150	10,414,567	△402,417				
Ⅱ　指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0				
指定正味財産期首残高	0	0	0				
指定正味財産期末残高	0	0	0				
Ⅲ　正味財産期末残高	10,012,150	10,414,567	△402,417				

2012 年度　収支計算書

北海道支部　　（単位：円）

科目名称	予算額	決算額	差異	科目名称	予算額	決算額	差異
Ⅰ 事業活動収支の部				Ⅰ 事業活動収支の部			
1 事業活動収入				2 事業活動支出			
(1) 特定資産運用収入	(5,000)	(17,691)	(△12,691)	(1) 事業費支出	(4,705,000)	(4,386,500)	(318,500)
特定預金利息収入	5,000	17,691	△12,691	研究集会事業費支出	(2,200,000)	(2,193,135)	(96,865)
(2) 事業収入	(2,875,000)	(3,042,923)	(△167,923)	研究集会事業費支出	2,200,000	2,193,135	96,865
研究集会事業収入	(2,200,000)	(2,367,923)	(△167,923)	文化事業・展示会費支出	(400,000)	(338,122)	(61,878)
研究集会事業収入	2,200,000	2,367,923	△167,923	文化事業費支出	370,000	301,940	68,060
文化事業収入	0	0	0	展示会事業費支出	30,000	34,182	△4,182
受託事業収入	500,000	500,000	0	調査研究事業費支出	920,000	851,829	68,171
その他の事業収入	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費支出	(760,000)	(670,414)	(89,586)
(3) 寄付金収入	(0)	(0)	(0)	表彰賞状費支出	720,000	660,055	59,945
基金寄付金収入	0	0	0	設計技技費支出	40,000	10,359	29,641
(4) 雑収入	(121,000)	(111,101)	(9,899)	委託事業費支出	425,000	425,000	0
雑収入	(121,000)	(111,101)	(9,899)	(2) 管理費支出	(5,814,000)	(5,719,132)	(94,868)
利息収入	1,000	733	267	会議費支出	(244,000)	(240,020)	(3,980)
その他の雑収入	120,000	110,368	9,632	総会費支出	200,000	199,290	710
(5) 他会計からの振入金収入	(6,447,000)	(6,591,500)	(△144,500)	役員会費支出	40,000	25,330	14,670
基本部門からの振入金収入	(6,447,000)	(6,591,500)	(△144,500)	運営費支出	4,000	15,400	△11,400
支部費収入	1,389,000	1,488,000	△99,000	給与手当支出	1,900,000	1,857,760	△57,760
経費助成費収入	1,860,000	1,907,500	△47,500	福利厚生費支出	300,000	314,038	△14,038
事業促進費収入	300,000	300,000	0	退職給付支出	0	0	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0	通信費支出	172,000	141,382	30,618
教育文化事業交付金収入	540,000	538,000	2,000	印刷費支出	100,000	82,888	17,112
支部事務費収入	300,000	300,000	0	消耗品費支出	90,000	95,754	△5,754
支部事務所費収入	1,858,000	1,858,000	0	電算費支出	0	0	0
				賃借費支出	455,000	495,443	△40,443
				事務所費支出	2,653,000	2,468,174	184,826
				租税公課支出	0	3,673	△3,673
事業活動収入計	9,448,000	9,763,215	△315,215	事業活動支出計	10,519,000	10,105,632	413,368
Ⅱ 投資活動収支の部				Ⅱ 投資活動収支の部			
1 投資活動収入				2 投資活動支出			
(1) 特定資産取崩収入	(470,000)	(270,000)	(200,000)	(1) 特定資産取得支出	(60,000)	(60,000)	(0)
特定資産取崩収入	(470,000)	(270,000)	(200,000)	特定資産取得支出	(60,000)	(60,000)	(0)
学術振興基金引当資産取崩収入	470,000	270,000	200,000	退職給付引当資産取得支出	60,000	60,000	0
貝谷賞金研究基金引当資産取崩収入	0	0	0				
投資活動収入計	470,000	270,000	200,000	投資活動支出計	60,000	60,000	0
Ⅲ 財務活動収支の部				Ⅲ 財務活動収支の部			
1 財務活動収入				2 財務活動支出			
財務活動収入計	0	0	0	財務活動支出計	0	0	0
				Ⅳ 予備費支出	14,000	0	14,000
収入合計 Ⅰ～Ⅲ	9,918,000	10,033,215	△115,215	支出合計 Ⅰ～Ⅳ	10,593,000	10,165,632	427,368
当期収支差額	△675,000	△132,417	△542,583				
前期繰越収支差額	2,000,000	2,063,017	△63,017				
次期繰越収支差額	1,325,000	1,930,600	△605,600				

監査報告

2012 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2013 年 4 月 24 日

支部監事 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

支部監事 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅲ　2013 年度事業計画方針案

１．活動方針

新たな支部規定や選挙細則に則り、中長期的な展望に立ち、学術団体に相応しい事業の強化と会員増強並びに財政の健全化に努める。

支部活動に要請される役割や責務に鑑みて、社会貢献活動を重視し、各常設委員会に期待できる成果を明確にした上で、活動の活性化並びに活動評価・検証を図る。

既存事業や既存制度の実施においては、本来の事業目的や費用対効果を総合的に評価検証のうえ、事業の合理化・効率化を図る。

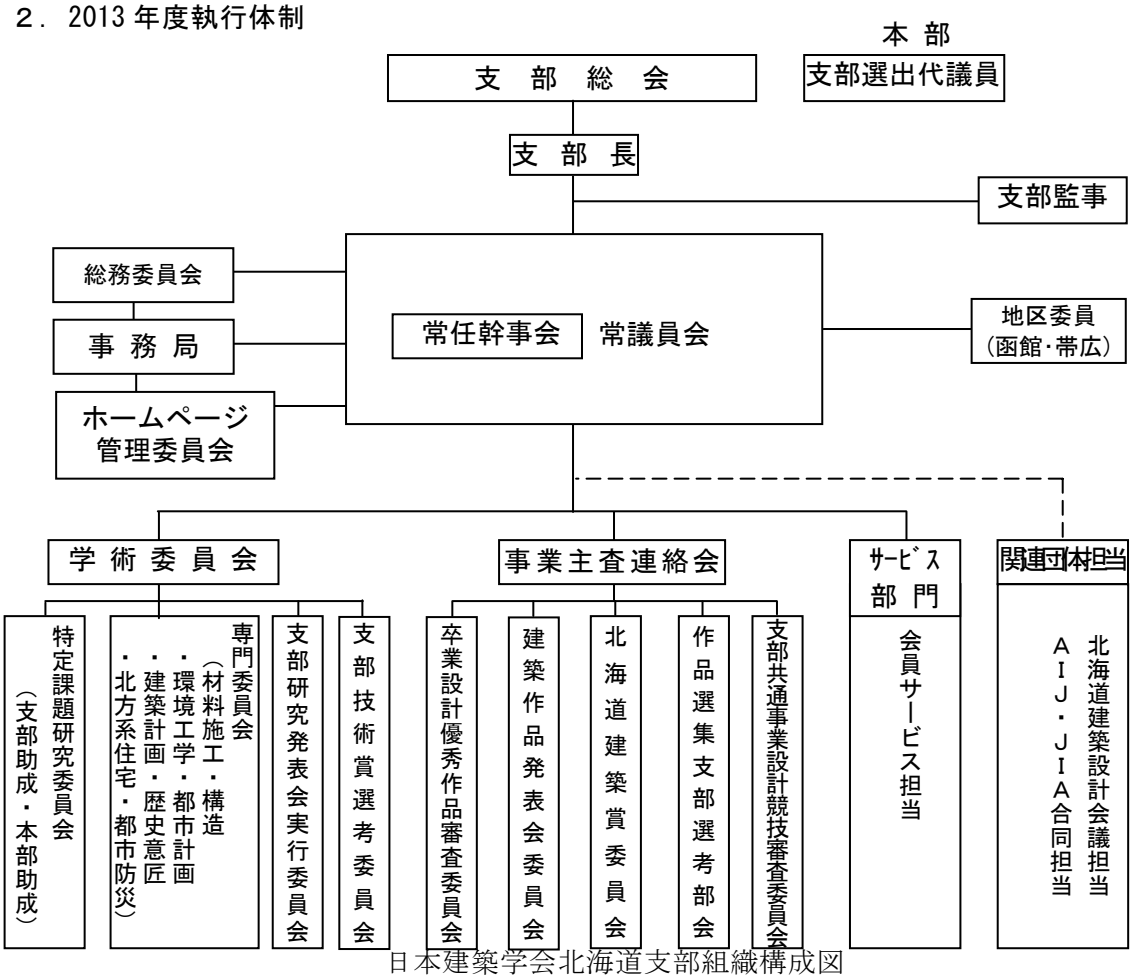
全国大会を成功裏に導くべく、円滑なる運営のための体制づくりを進め、相互支援協力を惜しまず、関連事業を財政に負担のかからない範囲で計画的に推進する。

新規事業や制度の設置にあたっては、期待できる成果を明確に示したうえで、実施可能な計画を立てる。

以上をふまえて、今年度は次の 6 点を中心に活動する。

① 支部活動の強化（会員の増強、財政の改善と強化）
② 常設委員会活動の点検と評価（各種委員会活動の検証）
③ 支部事業の活性化（支部発表会、建築作品発表会、各賞および支部技術賞のあり方の検討、他団体との連携）
④ 2013 年度日本建築学会北海道大会の開催
　会期：2013 年 8 月 30 日（金）～9 月 1 日（日）
　会場：北海道大学（札幌市北区北 13 西 8）
　大会メインテーマ：創（つくる）
⑤ 東日本大震災復興支援および今後の震災対応についての調査・研究
⑥ 特色ある支部活動企画「大雪による建物倒壊危険度判定方法の策定」

２．2013 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2012.6.1~2014.5.31)

岡田　成幸君　　北海道大学教授

新任常議員(2013.6.1~2015.5.31)

遠藤謙一良君　　㈱遠藤建築アトリエ代表取締役
清水　浩史君　　北海道建設部建設管理局建設政
※白井　和貴君　　北海道大学准教授
高松　　圭君　　伊藤組土建㈱設計部構造設計課長
千葉　隆弘君　　北海道工業大学准教授
※戸松　　誠君　　（地独）北海道立総合研究機構本部連携推進部主査
山田　　良君　　札幌市立大学講師

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2013 年 4 月 12 日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印　委員長)
☆大條　雅昭君，海藤　裕司君，小谷　卓司君，森　　太郎君，渡邊　和之君

留任常議員(2012.6.1~2014.5.31)

※安藤　淳一君　　道都大学教授
海藤　裕司君　　(株)山下設計北海道支社設計監理部部長
小谷　卓司君　　(株)北海道日建設計構造設計室
佐伯　健一君　　北海道札幌工業高等学校建築科教諭
島田　知典君　　岩田地崎建設㈱設計部設計課課長
最上　公一君　　大成建設㈱札幌支店作業所長
※森　　太郎君　　北海道大学准教授
(※印　常任幹事)

新任代議員（2013.4.1～2015.3.31）

伊東　敏幸君　　北海道工業大学教授
角　　幸博君　　北海道大学名誉教授
(2012 年 3 月の本部選挙の結果、上記 2 名が選出された)

留任代議員（2012.4.1~2014.3.31）

加藤　　誠君　　㈱アトリエブンク専務取締役
千歩　　修君　　北海道大学教授

新任支部監事（2013.6.1~2015.5.31）

星野　政幸君　　北海道工業大学名誉教授
(2013 年 4 月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事（2012.6.1~2014.5.31）

駒木　定正君　　北海道職業能力開発大学校教授

地区委員（2013.6.1～2015.5.31）

帯広地区委員　　小野寺　一彦君　　設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員　　山本　　真也君　　函館市教育委員会教育長

３．支部運営の諸会合の開催

◆ **総会**

期日　　2013 年 5 月 10 日(金)
会場　　北海道建設会館

◆ **常議員会**　（複数回）

◆ **常任幹事会**　（複数回）

◆ **選挙管理委員会**　（支部役員選挙時に開催する）

４．学術系委員会

４．１　学術委員会（主査：佐藤　孝君，委員数：14 名，委員会開催予定数：4 回）

本委員会は，本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに，各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け，各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また，支部長諮問事項についての検討，支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認，特色ある支部活動企画の申請，特定課題研究（本部・支部助成）の推薦，建築文化週間事業および北海道支部技術賞の募集と選考を行う。

第１回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の予定。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間企画の募集。
第２回：支部研究発表会の募集要項。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間企画の承認。支部技術賞の募集
第３回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の企画，専門・研究委員会活動報告。支部技術賞の選考。
第４回：支部研究発表会特別企画の決定。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間の結果報告。支部技術賞選考委員会による技術賞の選出。

４．２　専門委員会

◆材料施工専門委員会　（主査：長谷川拓哉君，委員数：22名，委員会開催予定数：6回）

建築の材料・施工に関する研究や技術の情報共有や意見交換を行うと共に、本部の関連委員との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工技術や特色のある建築物の現場見学会、本部主催講習会への協力など、北海道における材料・施工技術に関する研究委員会の活動を行う。具体的には、本部の材料施工委員会や各種工事運営委員会の報告および諮問事項の検討、委員等による材料・施工に関わる寒地技術の話題提供および意見交換、及び特色ある施工技術の現場見学会を 1～2 回予定している。

◆構造専門委員会（主査：溝口　光男君，委員数：24 名，委員会開催予定数：複数回）

これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

1) 委員会の開催：2 回行う（6 月，12 月）。必要に応じて通信会議を開く。
2) 講演会・講習会：JSCA 等の建築関連諸団体と協力して必要に応じて計画する。
3) 見学会：道内の建築物(施工中も含む)等の見学会を行う。
4) 工業高校巡回講演会の講師推薦
5) 勉強会：委員会開催時に、幅広い分野を対象に適宜勉強会を行う。

◆環境工学専門委員会（主査：斉藤　雅也君，委員数：14 名，委員会開催予定数：4 回）
2013 年度は以下の活動を予定している。

１）学位を取得した若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向を把握する。
２）2013 年度大会（北海道大学）において、環境工学本委員会の研究協議会「異分野からの視点を活かす建築環境工学－人材育成と地域課題解決に向けた連携のすがたー」を実施する(2013 年 8 月 31 日開催予定)。
３）2013 年度大会（北海道大学）の「市民セミナー企画（北海道の住まいづくり市民セミナー計画実行委員会)」を支援する。
４）環境建築、最新の設備技術を駆使している建築の見学会を実施する。北方系住宅専門委員会と連携して共催による見学会を実施する。
５)「第８回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs'13（会場：札幌市立大学（予定))」の開催を支援する。
６）空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会ほか、本委員会の関係組織が主催する講演会、セミナー等を支援する。

◆ 建築計画専門委員会　（主査：森　　傑君，委員数：14 名，委員会開催予定数：4 回）
本年度は、より精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、専門委員会の基本的意義である北海道の建築計画（学）分野にかかわる学会員の相互交流の場として、本委員会のさらなる活性化を目指す。具体的には、(1)委員各々の取り組みを勉強会形式により相互に紹介、建築計画（学）に関わる様々な課題や問題についての情報を共有する、(2)勉強会を発展させるようなかたちで、特定のテーマに絞ったミニシンポジウムを開催し、課題認識を深める、(3)今日の北海道において取り組むべき、建築計画（学）に関わるテーマを具体的かつ体系的に整理し、科学研究費補助金等への申請も視野に入れた、次年度以降の共同研究課題について検討する、(4)少子高齢化･過疎化における居住環境に関わる調査研究を中心とした特色ある支部活動を企画･実施する、に取り組む。

◆ 都市計画専門委員会　（主査：坂井　文君，委員数：14 名，委員会開催予定数：6 回）
2013 年度の委員会の活動については､継続的に行っている情報発信と人材育成に関わる活動を中心に計画する。情報発信に関しては、市民のまちづくりに対する意識の啓蒙と知見を広げるために、7 月にシンポジウムの開催を計画している。11，12 年度の地下歩行空間や開発のすすむ地区のまちづくりのあり方に関わるシンポジウムの際の経験を踏まえ、活発な議論とより多くの市民の参加となるような企画を目指している。人材育成については、都市計画を遂行する人材の育成に向けて、現場と技術と理論を並行して理解するための勉強会などの開催を計画している。具体的には、北海道の地方都市の地域主権によるまちづくりの取り組みのうち特に、産業・観光振興に連動した景観まちづくりやコンパクトシティーにむけた交通計画について勉強会を 10、11、12 年度に引き続き行う。

◆歴史意匠専門委員会　（主査：羽深　久夫君，委員数：17 名，委員会開催予定数：4 回）
道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行ない、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を準備する。
平成２５年度から２年間で特定課題研究委員会(本部助成)「北海道における戦後建築の変遷とその特徴に関する基礎的研究」を行い、戦後の北海道で建設された建築の変遷とその特徴を明らかにする。大会にあわせて豊平館耐震補強現場見学会(8/31)と懇親会を開催する。2012 年度の建築文化週間事業として国重要文化財豊平館保存修理工事の見学「建築散歩ー豊平館を見て楽しむ」(10/12)を実施する。なお、委員会内部の活性化を考慮した研究交流や情報交換等も継続して行なう予定である。

◆北方系住宅専門委員会　（主査：谷口　尚弘君，委員数：14 名，委員会開催予定数：4 回）
本委員会では次の活動を予定している。
1)新な地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため年４回の委員会を開催する。
2)住宅ストックの持続的活用による北海道の住文化の形成に資するために、科研研究「ブロック

造三角屋根住宅の持続可能なシステムの開発」に取り組む。
3)新たな地域住宅像の検討に向けて住宅の見学会・意見交換会を開催する。
4) 2013 年大会時の住まいづくり建築支援・市民セミナーの開催を行う。

◆都市防災専門委員会　（主査：戸松　誠君，委員数：20 名，委員会開催予定数 2 回）
〇活動方針
委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。
〇主な活動事業
1）建築文化週間事業「地震防災体験学習」への支援（１０月頃を予定)。
2）構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
3）災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
4）各種防災イベントへの協力

４．３　特定課題研究委員会

(2012 年度より)
◆奥尻島生活再建研究委員会（主査：南　慎一君，委員数：9 名，委員会開催予定数：3 回）
生活再建過程の分析及び生活行動・意識の変化についての分析を行うと共に、災害からの教訓とその継承についてとりまとめる。

◆厳冬期被災を想定した避難所運営手法に関する研究委員会（主査：森　太郎君，委員数：6 名，委員会開催予定数：複数回）
避難所の運営手法については、避難所運営マニュアルの例は多くあるが、より実践的な訓練手法の一つに静岡県が実用化した「HUG」手法がある。これは、避難所の運営に当たる人たち（施設管理者、自主防災組織、ボランティアなど）を対象に、研修会で使われているものである。しかし、寒冷地の避難事例が含まれていないために防寒対策の面が十分に盛り込まれていない。
本研究では、多くの自治体で想定される避難状況に対応する為に、避難所の運営に係る諸課題を解決し、適正且つ円滑な運営を図るため、冬季の避難対策を対象にした避難所運営手法の開発を行う。得られる成果は、自治体職員、自主防災組織、ボランティアの研修用ツールとしての活用が見込まれる。
・研究項目
1.避難所の温熱環境の調査：これまでの実績データのまとめと道東地域の体育館を対象に冬期に防災訓練を実施し，その際の温熱環境調査，体感調査を実施する．
2.避難所運営手法の開発：HUG の内容の見直しを実施する．また，札幌市の避難所運営研修手法開発へのサポートを実施する．
3.避難所運営手法の検証：北海道内自治体の避難所運営研修のサポートを実施する．

◆寒冷地におけるフライアッシュの有効利用研究委員会（主査：深瀬　孝之君，委員数：14 名，委員会開催予定数：複数回）
本委員会では、北海道におけるフライアッシュコンクリートの利用実態や利用者意識に関するアンケート調査を実施する。また、課題解決に向けた調査研究を進めるとともに、フライアッシュコンクリートに関する設計、製造および施工に関する技術資料の整備や広報活動を行う。

４．４　本部からの支部助成金による研究委員会

(2013 年度より)
◆建築史意匠研究委員会（主査：羽深　久夫君，委員数：17 名，委員会開催予定数：複数回回）
本研究では、既往研究や刊行物、諸々の報告書から戦後建築の情報を抽出し、地区毎に担当委員をきめ、新聞記事や聞き取りによって情報を付加し、関連資料の収集を行なう。また、北海道

の戦後建築教育を担った諸先生に関して各機関の OB・OG から情報を収集する。

４．５　特色ある支部活動

◆大雪による建物倒壊危険度判定方法の策定研究（主査:草苅敏男:委員数:8 名，委員会開催予定数:複数回）

日本建築学会北海道支部では今冬期における豪雪が、今後予想される地域における高齢化や過疎化を含む社会変化やそれに伴う建物の構造や形式、防災対策などを考える上で有効なデータを与えてくれる事から、被害状況を記録にとどめることは非常に重要であることを確認した。
このような大雪による建物被害を出来るだけ防止することは防災の観点からも重要であり、そのためには、使用されない建物が大雪によって危険性があるのか無いのかを判断できれば、事前の対策が可能と考えられる。

危険性の有無に対する判断基準や評価基準を策定するために活動を行う。

５．支部研究発表会

５．１　支部研究発表会実行委員会（主査：森　太郎君，実行委員会委員数：16 名，委員会開催予定回数：4 回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。
1）支部研究発表会の日程と会場の決定
2）支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
3）論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
4）会長講演会および特別企画の実施
5）論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
6）支部研究報告集（冊子および CD―ROM）の作成および発行
7）支部研究発表会の実施
8）優秀講演奨励賞の選定・授与

５．２ 支部研究発表会の実施

第 86 回北海道支部研究発表会
日時：2013 年 6 月 29 日（土）一般研究発表会、川口衛先生講演会
場所：北海道工業大学 G 棟
懇親会：講演会終了後に HIT プラザで実施
原稿提出締切：2012 年 4 月 18 日（木）17:00（電子投稿受付）
発表登録システム HP：
http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis_entry.php
支部研究報告集（冊子および CD―ROM）No.86 を発行

６．表彰

６．１　北海道建築賞

（１）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の 3 つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（２）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

1) 第 38 回北海道建築賞の応募期間：2013 年 4 月 15 日（月）～5 月 15 日（水）
2) 審査期間：5 月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6 月中旬（書類審査）～7・8 月（現地審査）～9 月上旬（最終選考）
3) 結果発表：9 月下旬
4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10 月 25 日（金）予定

６．２　卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（１）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（２）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2013 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2012 年度と同様、2013 年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

６．３　卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

６．４　日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

６．５　日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

７．北海道建築作品発表会

７．１　北海道建築作品発表会委員会（主査：米田　浩志君，委員数：3 名，実行委員数：10 名，委員会開催数：5 回（実行委員会 4 回を含む））

2013 年度は、建築作品発表会が第 33 回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく 33 年目の発表会プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

７．２　北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬
作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬
作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

８．特別委員会

８．１　事業主査連絡会（事業系５委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，予定開催数：複数回）

事業系 5 委員会について、事業の進捗状況ならびに事業を進める上での問題点等を適宜把握する。これを通じて、意思決定機関である常議員会へ改善や展開の提案等をおこなう。また、この役割を今後も果たすために必要な活動を推進する。さらに、事業系 5 委員会が連携しながら事業総体の活性化を計る可能性についても検討を継続する。

８．２　総務委員会　（委員長：小澤　丈夫君，委員数：5 名，委員会開催予定数 1 回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2013 年度）（予定）

委員長：	小澤 丈夫君	北海道大学	（教育機関の常議員経験者）
委員：	那須 豊治君	岩田地崎建設	（民間機関の常議員経験者）
	福島　明君	北海道	（行政機関の常議員経験者）
	海藤　裕司君	山下設計	（留任常議員）
	未　定		（新任常議員）

８．３　ホームページ管理委員会（主査：斉藤　雅也君，委員数：3 名，委員会開催予定数：複数回）

平成25年度は主に以下の事項について実施する予定である。

１）常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
２）2013 年度大会の活動（大会専用ホームページ）を支援する。
３）本部の情報化推進に併せて、支部ホームページが貢献することが期待できる活動を積極的に行なう。

９．講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

９．１　本部主催講習会

2013 年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

９．２　講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

９．３　展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

９．４　見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

１０．本部関連事業・その他

１０．１　2013 年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人　洋志君，委員数：5 名，委員会開催予定数：1 回）

2013 年度設計競技審査委員会は、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎，小西彦仁，山田良，山内裕一の５名で行う予定である。
2013 年度の課題は「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する」と決定され、７月中に支部審査を 1 回行う予定である。
2012 年度の応募総数は、8 案と他支部に比して少なく、2011 年度と同数であった。より活況を期して今年度に続いて道内大学学生に参加の呼びかけを行いたい。

１０．２　作品選集支部選考部会　（主査：加藤　誠君，委員数：6 名，委員会開催予定数：2 回及び現地審査）

2011 年度の応募数は 6 作品であったが、2012 年度も応募数が 7 作品で、ほぼ横ばいであった。住宅の応募が、昨年に続き 2 年連続 1 作品にとどまったが、非住宅の応募については、道南から道東にわたる多様な建築の応募が見られた。応募者は、これまでにも応募経験のある、いわゆる組織設計事務所に属する設計者が多い。2013 年度以降、住宅など小規模建築の応募、また、幅広い会員層に対してより積極的に応募を求めるよう呼かけていきたい。また、支部による現地審査は、作品選集の全審査工程において重要な役割をもつと考える。今後も引き続き、できる限り多くの委員が多くの現地審査を行えるようにしていきたい。

１０．３　建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の 3 件を予定している。

１．「地震防災体験学習・・・親子で始める地震防災対策」（都市防災専門委員会）
２．歴史的建造物の見学「建築散歩～豊平館を見て楽しむ」（歴史意匠専門委員会）
３．「第 38 回北海道建築賞表彰式・記念講演会」　　（支部主催）

１１．建築関連団体との活動

１１．１　AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：常任 8 名，委員会開催予定数：1 回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては、継続して行うように計画を進める。

１１．２　北海道建築設計会議

10 団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

１２．2013 年度日本建築学会大会（北海道）の開催

会期：2013 年 8 月 30 日（金）～9 月 1 日（日）
会場：北海道大学（札幌市北区北 13 西 8）

メインテーマ：創（つくる）

大会テーマを「創（つくる）」とし、会員をはじめ一般市民を対象とした諸行事を予定している。大会に関する最新の情報は、常に大会 URL 等にて紹介する予定である。

Ⅳ　2013 年度収支予算案

北海道支部　　（単位：円）

科目名称	予算額	前年度予算額	差異	科目名称	予算額	前年度予算額	差異
Ⅰ 事業活動収支の部				Ⅰ 事業活動収支の部			
1 事業活動収入				2 事業活動支出			
(1) 特定資産運用収入	(5,000)	(5,000)	(0)	(1) 事業費支出	(54,860,000)	(4,705,000)	(50,155,000)
特定資産利息収入	5,000	5,000	0	研究集会事業費支出	(52,340,000)	(2,200,000)	(50,140,000)
(2) 事業収入	(44,015,000)	(2,875,000)	(41,140,000)	研究集会事業費支出	52,340,000	2,200,000	50,140,000
研究集会事業収入	(43,840,000)	(2,200,000)	(41,640,000)	文化事業・展示会費支出	(390,000)	(400,000)	(△10,000)
研究集会事業収入	43,840,000	2,200,000	41,640,000	文化事業費支出	360,000	370,000	△10,000
文化事業収入	0	0	0	展示会事業費支出	30,000	30,000	0
受託事業収入	0	500,000	△500,000	調査研究事業費支出	1,370,000	920,000	450,000
その他の事業収入	175,000	175,000	0	表彰・顕彰事業費支出	(760,000)	(760,000)	(0)
(3) 寄付金収入	(0)	(0)	(0)	表彰関係費支出	720,000	720,000	0
基金寄付金収入	0	0	0	創立記念費支出	40,000	40,000	0
(4) 雑収入	(121,000)	(121,000)	(0)	受託事業費支出	0	425,000	△425,000
雑収入	(121,000)	(121,000)	(0)	(2) 管理費支出	(5,814,000)	(5,814,000)	(0)
利息収入	1,000	1,000	0	会議費支出	(244,000)	(244,000)	(0)
その他の雑収入	120,000	120,000	0	総会費支出	200,000	200,000	0
(5) 他会計からの繰入金収入	(15,365,000)	(6,447,000)	(8,918,000)	役員会費支出	40,000	40,000	0
基本部門からの繰入金収入	(15,365,000)	(6,447,000)	(8,918,000)	運営費支出	4,000	4,000	0
支部費収入	1,377,000	1,389,000	△12,000	給与手当支出	1,800,000	1,800,000	0
組織育成費収入	1,830,000	1,860,000	△30,000	福利厚生費支出	300,000	300,000	0
事業促進費収入	790,000	300,000	490,000	退職給付支出	0	0	0
支部研究活動費収入	200,000	200,000	0	通信費支出	172,000	172,000	0
教育文化事業交付金収入	550,000	540,000	10,000	印刷費支出	100,000	100,000	0
大会交付金収入	8,500,000	0	8,500,000	消耗品費支出	90,000	90,000	0
支部事務費収入	300,000	300,000	0	電算費支出	0	0	0
支部事務所費収入	1,858,000	1,858,000	0	雑費支出	455,000	455,000	0
会館部門からの繰入金収入	(0)	(0)	(0)	事務所費支出	2,653,000	2,653,000	0
支部事務所費収入	0	0	0			0	
事業活動収入計	58,506,000	8,448,000	50,058,000	事業活動支出計	60,674,000	10,519,000	50,155,000
Ⅱ 投資活動収支の部				Ⅱ 投資活動収支の部			
1 投資活動収入				2 投資活動支出			
(1) 特定資産取崩収入	(470,000)	(470,000)	(0)	(1) 特定資産取得支出	(80,000)	(80,000)	(0)
特定資産取崩収入	(470,000)	(470,000)	(0)	特定資産取得支出	(80,000)	(80,000)	(0)
学術振興基金引当資産取崩収入	470,000	470,000	0	学術振興基金引当資産取得支出	0	0	0
支部基金引当資産取崩収入	0	0	0	支部基金引当資産取得支出	0	0	0
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	退職給付引当資産取得支出	80,000	80,000	0
投資活動収入計	470,000	470,000	0	投資活動支出計	80,000	80,000	0
Ⅲ 財務活動収支の部				Ⅲ 財務活動収支の部			
1 財務活動収入				2 財務活動支出			
財務活動収入計	0	0	0	財務活動支出計	0	0	0
				Ⅳ 予備費支出	12,000	14,000	△2,000
収入合計 Ⅰ～Ⅲ	58,976,000	8,918,000	50,058,000	支出合計 Ⅰ～Ⅳ	60,746,000	10,593,000	50,153,000
当期収支差額	△770,000	△676,000	△96,000				
前期繰越収支差額	1,430,000	2,000,000	△570,000				
次期繰越収支差額	660,000	1,325,000	△665,000				

基金・積立金内訳

2012年度末(決算)		2013年度末(予算)	
支部基金	2,810,000	支部基金	2,810,000
災害調査研究基金	1,900,000	災害調査研究基金	1,900,000
学術振興基金	2,810,000	学術振興基金	2,340,000
職員退職積立金	720,000	職員退職積立金	780,000

Ⅴ　支部規程の改正

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿 2013年3月末現在

◆法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建㈱
00505-34	2	岩倉建設㈱
00505-50	2	岩田地崎建設㈱
00515-72	1	㈱岡田設計
00567-92	2	北電興業㈱
00517-00	5	鹿島建設㈱
00614-38	1	㈱ホ-ム企画センター総務部
00523-82	2	㈱熊谷組
00568-23	2	㈱北海道日建設計
00571-46	3	丸彦渡辺建設㈱
00540-41	5	大成建設㈱
00575-10	1	宮坂建設工業㈱
00544-49	2	㈱竹中工務店
00674-76	1	㈱間組 札幌支店建築部
00674-84	1	五洋建設㈱ 札幌支店
00549-52	1	東急建設㈱ 札幌支店
00710-77	1	㈱久米設計札幌支社
00684-22	1	㈱北海道サンキット
00724-63	1	㈲エヌディースタジオ
00725-28	1	㈱コバエンジニア
00725-36	1	㈲北欧住宅研究所
00708-51	2	北海道旅客鉄道㈱
00721-70	1	㈱土屋ホーム
00547-58	1	戸田建設㈱
00553-56	1	㈱巴コ-ポレ-ション
00557-04	1	日鐵セメント㈱
00614-45	1	日本デ-タサ-ビス㈱
00560-51	1	㈱日本設計札幌支社
00561-82	1	日本防水総業
00573-66	1	㈱三菱地所設計
00625-81	1	㈱アトリエ･アク
00586-89	1	北農設計センタ-
00597-74	1	㈱総研設計
00616-32	1	㈱北方住文化研究所
00568-07	1	㈱ドーコン
00618-60	1	北海道建築設計監理㈱
00568-15	2	北海道コンクリ-ト工業
00531-84	1	清水建設㈱
00538-83	2	㈱田中組
00674-50	1	㈱中原建築設計事務所
00684-14	1	㈱三晄プレコンシステム
00685-29	1	㈱北海道不二サッシ
00704-45	1	㈱アトリエ・ブンク
00704-09	2	(財) 北海道建築指導センター

◆**賛助会員**

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力㈱
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00815-01	1	北海学園大学附属図書館
00815-19	1	札幌建築デザイン専門学校
00847-03	1	㈱総合資格

一般社団法人　日本建築学会北海道支部

〒060-0004　札幌市中央区北４条西３丁目１
北海道建設会館　６階
TEL.011-219-0702　　FAX.011-219-0765
E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp
http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/